

徳島市障害福祉計画の見直しに係る
アンケート調査票結果報告書

令和3年3月
徳島市

目 次

- 1 「徳島市障害福祉計画の見直しに係るアンケート調査」の概要・・・・・・・・ 1
- 2 「徳島市障害福祉計画の見直しに係るアンケート調査」の結果・・・・・・・・ 2
 - (1)「障害者手帳（身体・療育・精神）所持者または障害児通所支援等（児童）利用者を対象とした調査」の結果・・・・・・・・ 2
 - (2)「その他の市民を対象とした調査」の結果・・・・・・・・ 29
- 3 主な自由意見・・・・・・・・ 57
 - (1)「障害者手帳（身体・療育・精神）所持者または障害児通所支援等（児童）利用者を対象とした調査」の主な自由意見・・・・・・・・ 57
 - (2)「その他の市民を対象とした調査」の主な自由意見・・・・・・・・ 59

1 「徳島市障害福祉計画の見直しに係るアンケート調査」の概要

(1) 調査目的

障害者(児)の障害の程度や生活の状況、障害者(児)及びその他の市民の意識等を把握し、計画策定や施策推進のための基礎資料とすることを目的として実施しました。

(2) 調査対象

- ①障害者手帳（身体・療育・精神）所持者のうち、各 10%程度
- ②障害児通所支援等（児童）利用者のうち、10%程度
- ③住民基本台帳から無作為抽出した18歳以上の市民のうち、0.6%程度

(3) 調査方法

郵送（対象者に調査票と返信用封筒を送付）により実施

(4) 調査期間

令和2年7月31日～令和2年8月24日

(5) 回収状況

対象者	送付数	回収数	回収率
障害者手帳（身体・療育・精神）所持者	1,500	660	44.0%
障害児通所支援等（児童）利用者			
その他の市民	1,500	496	33.1%
合計	3,000	1,156	38.5%

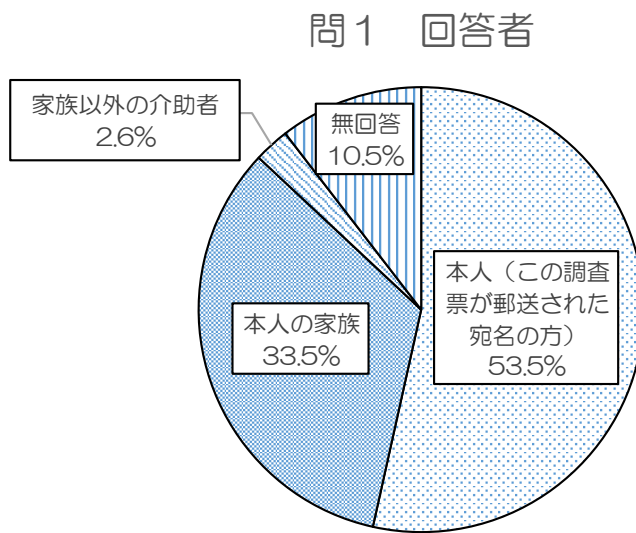
※調査期間内に受付したものを集計しています。

2 「徳島市障害福祉計画の見直しに係るアンケート調査」の結果
 ※構成比は小数点第2位を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合があります。

(1) 「障害者手帳（身体・療育・精神）所持者または障害児通所支援等（児童）利用者を対象とした調査」の結果

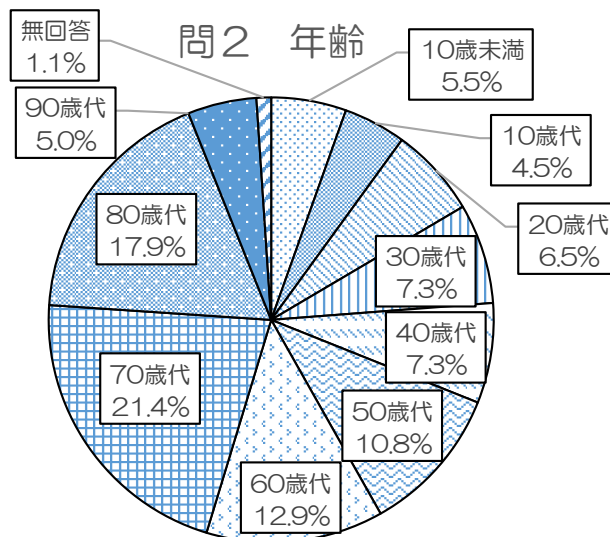
問1 お答えいただくのは、どなたですか。（〇は1つだけ）

回答者は、「本人（この調査票が郵送された宛名の方）」（53.5%）が最も多く、次いで、「本人の家族」（33.5%）、「家族以外の介助者」（2.6%）となっています。



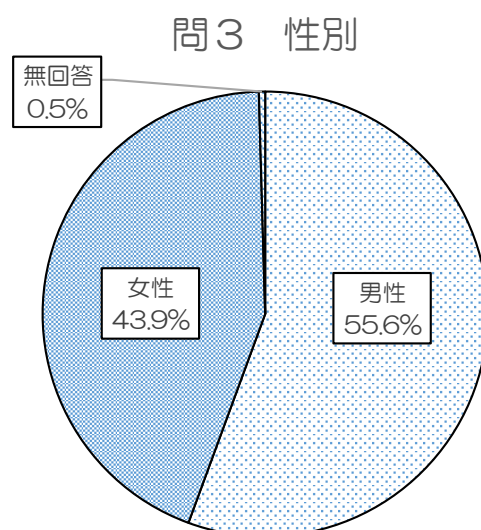
問2 あなたの年齢をお答えください。（令和2年8月1日現在）

回答者の年齢は、「70歳代」（21.4%）が最も多く、次いで「80歳代」（17.9%）、「60歳代」（12.9%）となっています。



問3 あなたの性別をお答えください。(〇は1つだけ)

回答者の性別は、「男性」(55.6%)、「女性」(43.9%)となっています。

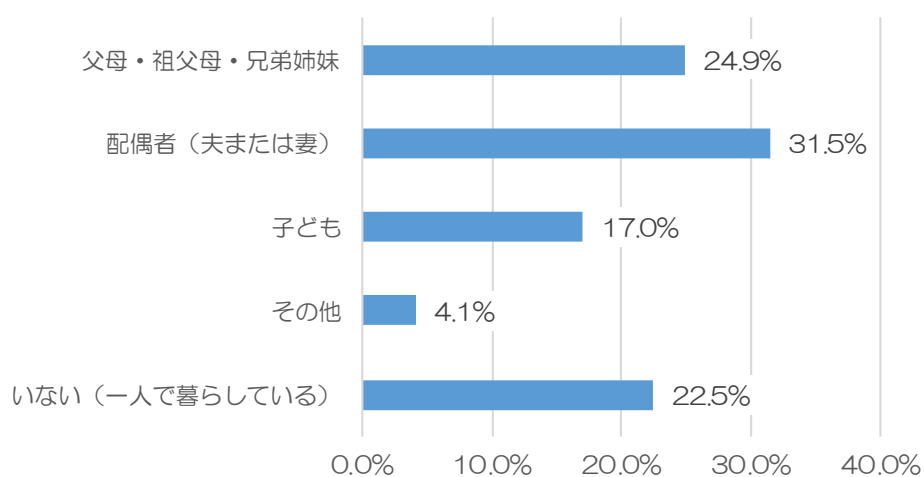


問4 いま、あなたが一緒に暮らしている人は、どなたですか。

(あてはまるものすべてに〇)

同居している人は、「配偶者(夫または妻)」(31.5%)が最も多く、次いで、「父母・祖父母・兄弟姉妹」(24.9%)、「いない(一人で暮らしている)」(22.5%)となっています。

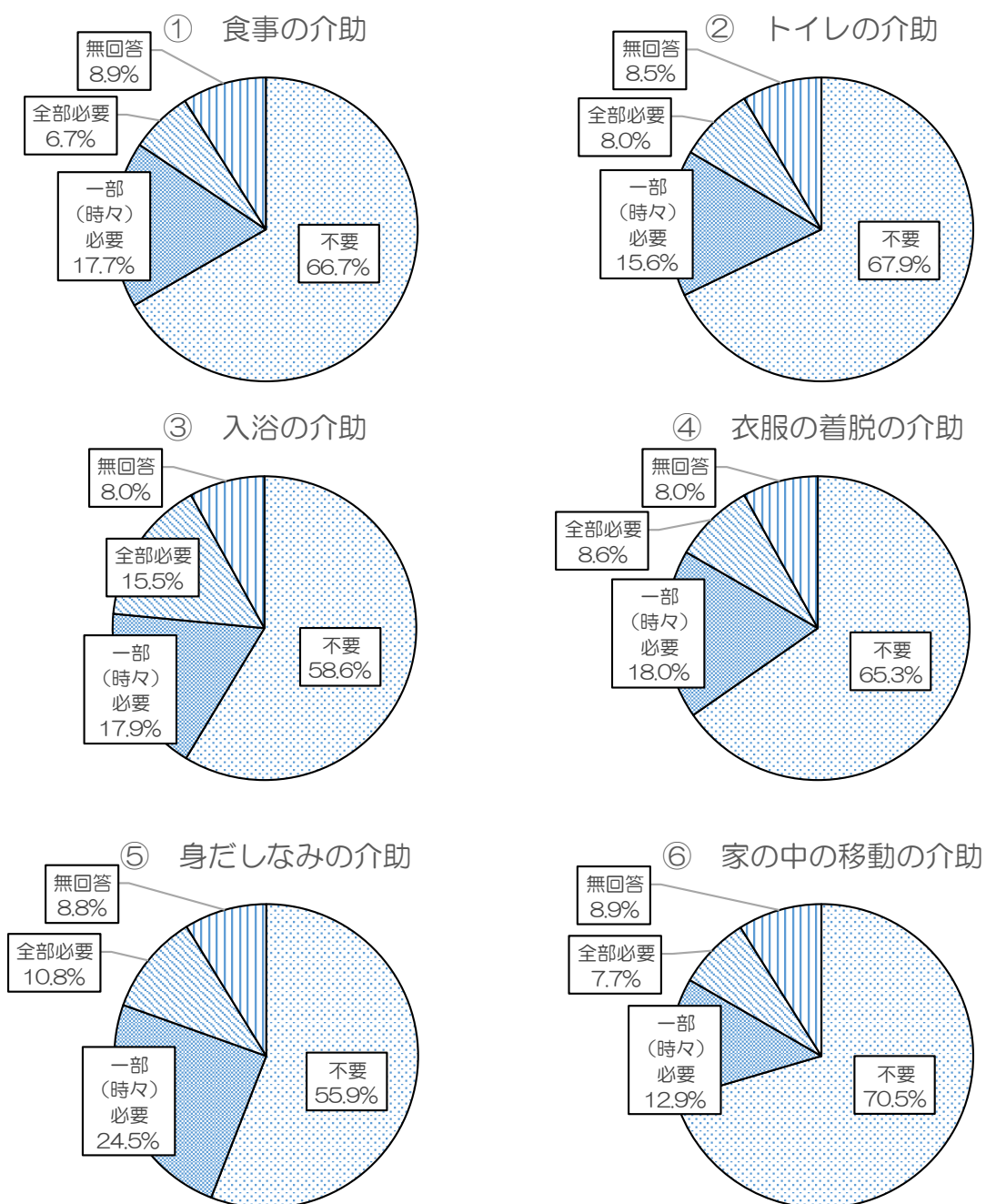
問4 同居している人



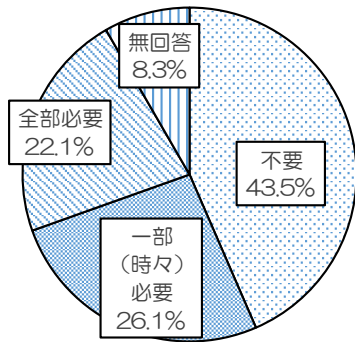
問5 日常生活の中で、次の支援が必要です。①から⑩のそれぞれにお答えください。(①から⑩それぞれに○を1つ)

すべての項目において、「不要」が最も多くなっていますが、「③入浴の介助」、「⑤身だしなみの介助」、「⑦外出の介助」、「⑧家族以外の人との意思疎通の介助」、「⑨お金の管理の援助」、「⑩薬の管理の援助」については、「一部(時々)必要」と「全部必要」の合計が3割以上を占めています。

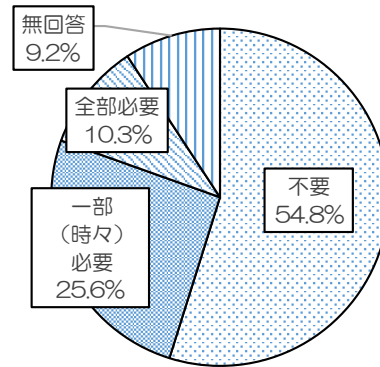
問5 必要な支援



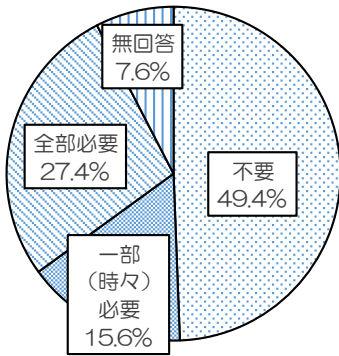
⑦ 外出の介助



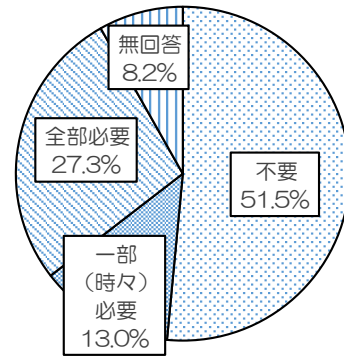
⑧ 家族以外の人との意思疎通の介助



⑨ お金の管理の援助



⑩ 薬の管理の援助

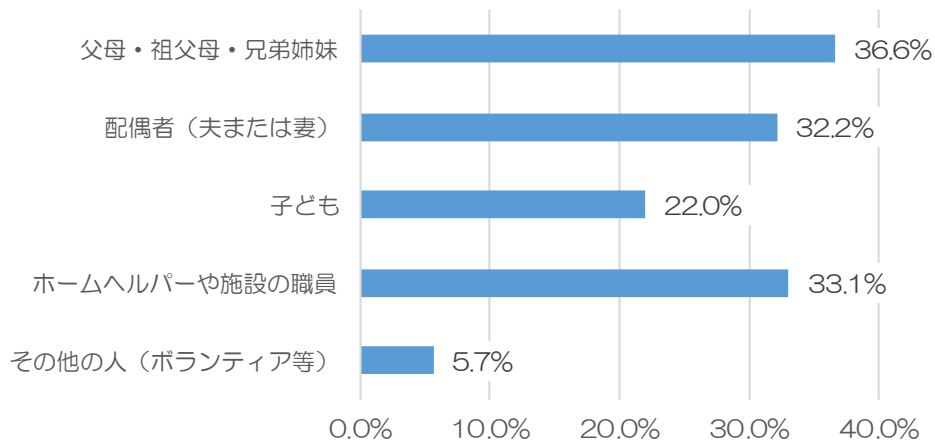


問6 あなたを支援してくれる方は主に誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

※【問5で「一部(時々)必要」または「全部必要」と答えた方がお答えください】

主に支援してくれる人は、「父母・祖父母・兄弟姉妹」(36.6%)が最も多く、次いで、「ホームヘルパーや施設の職員」(33.1%)、「配偶者(夫または妻)」(32.2%)となっています。

問6 主に支援してくれる人

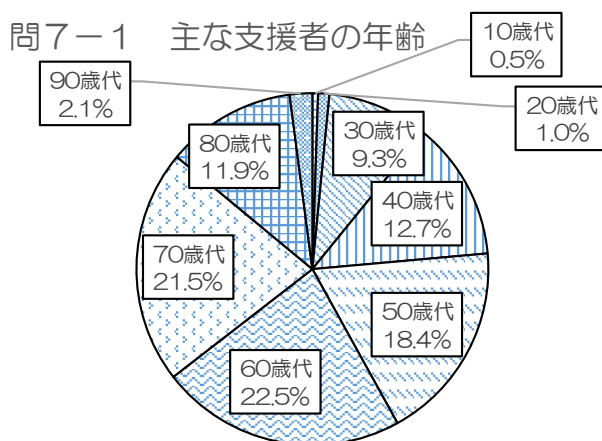


問7 あなたを支援してくれる家族で、主な方の年齢、性別、健康状態をお答えください。

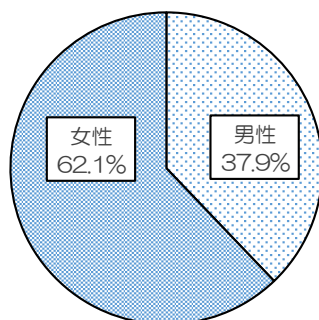
※【問6で「父母・祖父母・兄弟姉妹」または「配偶者（夫または妻）」または「子ども」と答えた方がお答えください】

主な支援者の年齢は、「60歳代」(22.5%)が最も多く、次いで、「70歳代」(21.5%)、「50歳代」(18.4%)となっています。

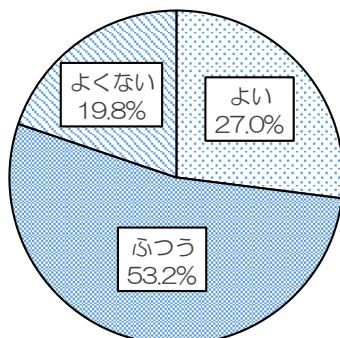
また、主な支援者の性別は、「女性」(62.1%)、「男性」(37.9%)となっており、主な支援者の健康状態は、「ふつう」(53.2%)が最も多く、次いで、「よい」(27.0%)、「よくない」(19.8%)となっています。



問7-2 主な支援者の性別



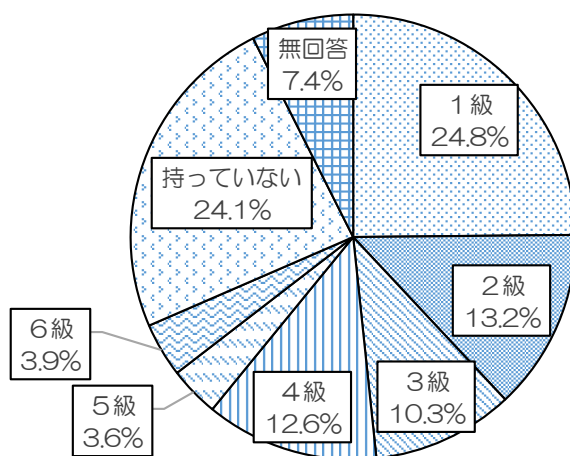
問7-3 主な支援者の健康状態



問8 あなたは身体障害者手帳をお持ちですか。(〇は1つだけ)

身体障害者手帳を持っている人は6割超を占めており、「1級」(24.8%)が最も多く、次いで、「2級」(13.2%)、「4級」(12.6%)となっています。

問8 身体障害者手帳の等級

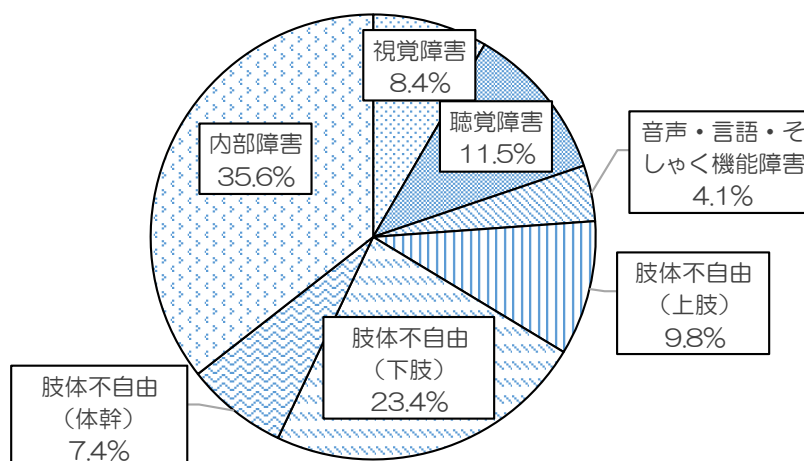


問9 身体障害者手帳をお持ちの場合、主たる障害をお答えください。

(〇は1つだけ)

主たる障害は、「内部障害」(35.6%)が最も多く、次いで、「肢体不自由(下肢)」(23.4%)、「聴覚障害」(11.5%)となっています。

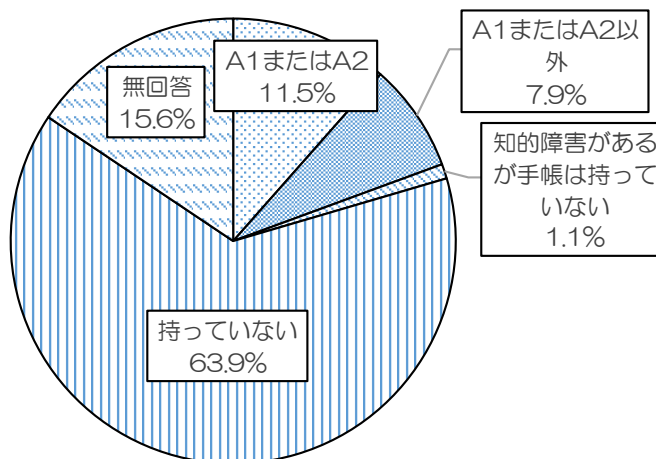
問9 主たる障害



問10 あなたは療育手帳をお持ちですか。(〇は1つだけ)

療育手帳を持っている人は2割近くを占めており、「A1 または A2」(11.5%)、「A1 または A2以外」(7.9%) となっています。

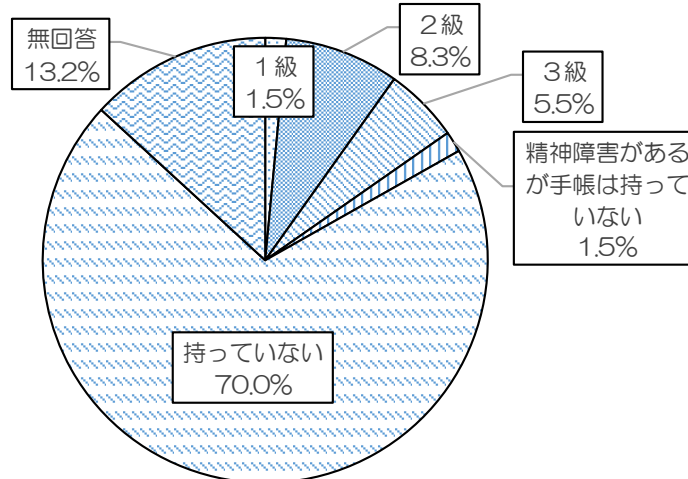
問10 療育手帳の判定



問11 あなたは精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。(〇は1つだけ)

精神障害者保健福祉手帳を持っている人は1割超を占めており、「2級」(8.3%) が最も多くなっています。

問11 精神障害者保健福祉手帳の等級

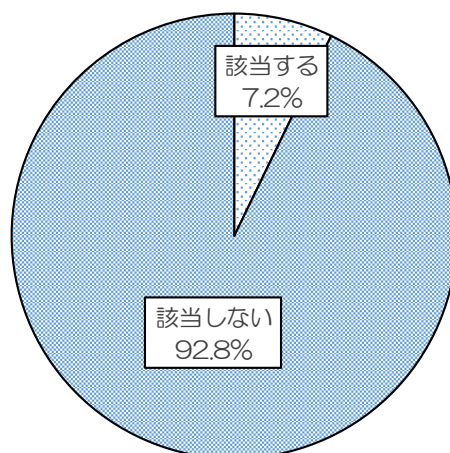


問12 あなたは重症心身障害に該当しますか。(〇は1つだけ)

※【18歳未満の方のみお答えください】

重症心身障害は、「該当する」(7.2%)、「該当しない」(92.8%)となっています。

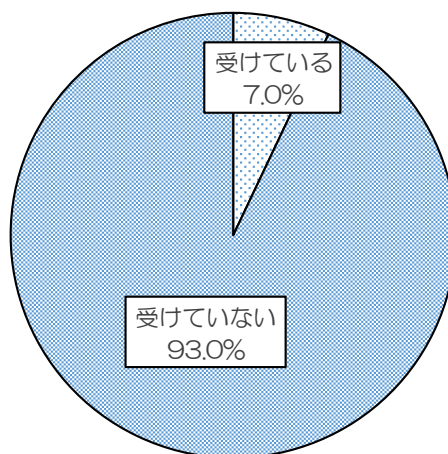
問12 重症心身障害



問13 あなたは難病（指定難病）の認定を受けていますか。(〇は1つだけ)

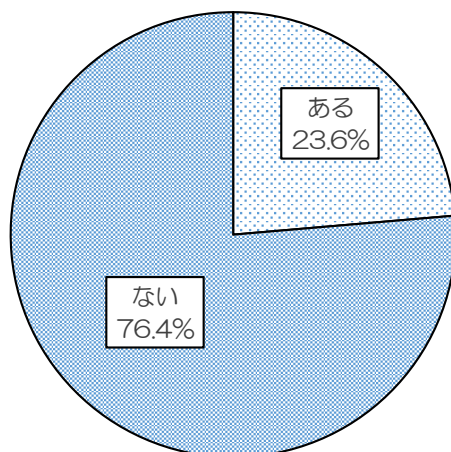
難病（指定難病）の認定は、「受けている」(7.0%)、「受けていない」(93.0%)となっています。

問13 難病（指定難病）の認定



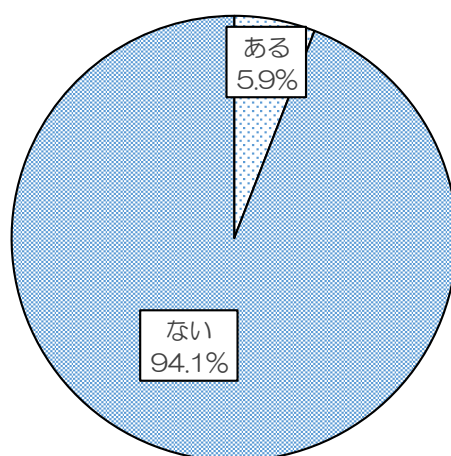
問14 あなたは発達障害として診断されたことがありますか。(〇は1つだけ)
発達障害としての診断は、「ある」(23.6%)、「ない」(76.4%)となっています。

問14 発達障害の診断



問15 あなたは高次脳機能障害として診断されたことがありますか。
(〇は1つだけ)
高次脳機能障害としての診断は、「ある」(5.9%)、「ない」(94.1%)となっています。

問15 高次脳機能障害の診断

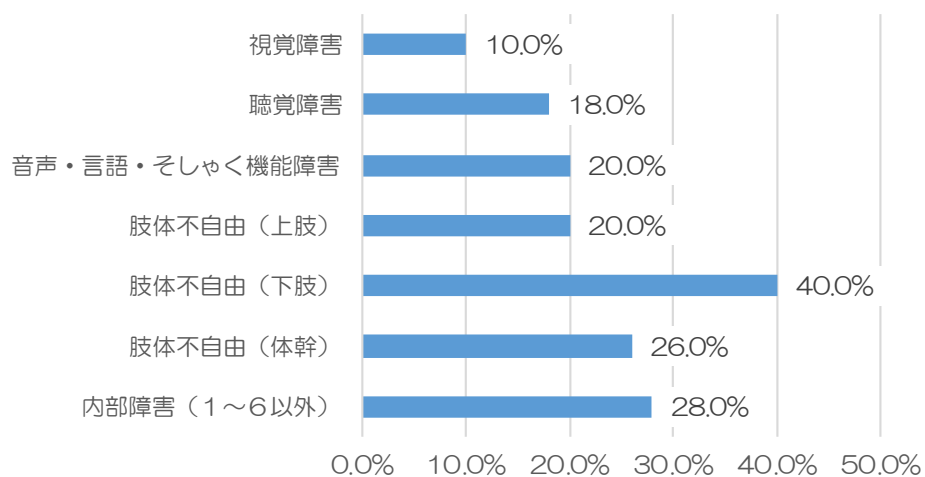


問16 その関連障害をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

※【問15で「ある」を選択された方がお答えください】

関連障害は、「肢体不自由(下肢)」(40.0%)が最も多く、次いで、「内部障害」(28.0%)、「肢体不自由(体幹)」(26.0%)となっています。

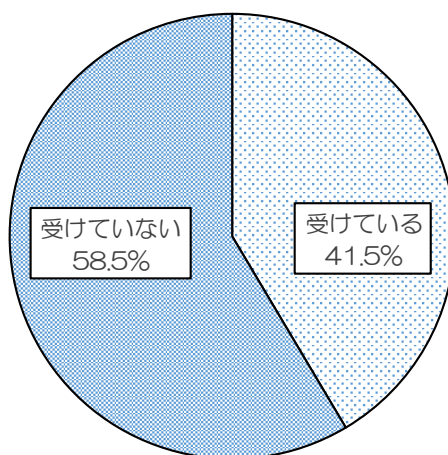
問16 関連障害



問17 あなたは現在医療的ケアを受けていますか。(○は1つだけ)

医療的ケアは、「受けている」(41.5%)、「受けていない」(58.5%)となっています。

問17 医療的ケア



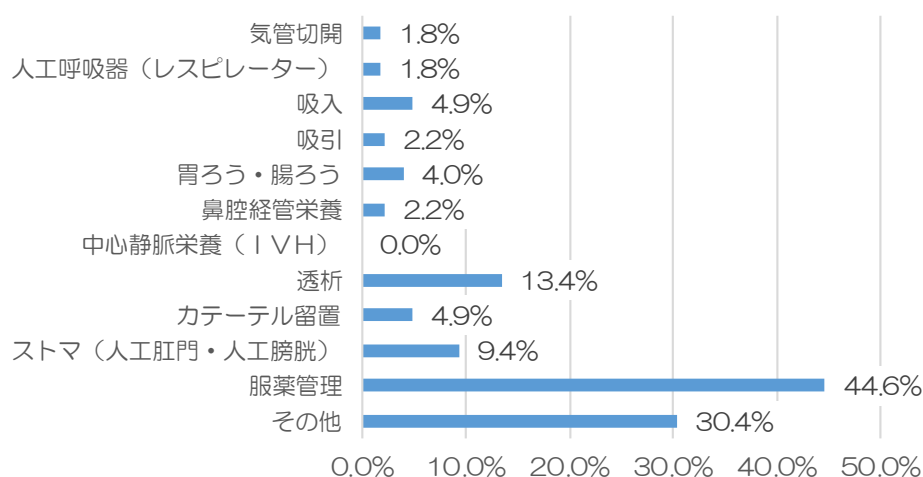
問18 あなたが現在受けている医療的ケアをご回答ください。

(あてはまるものすべてに○)

※【問17で「受けている」を選択された方がお答えください】

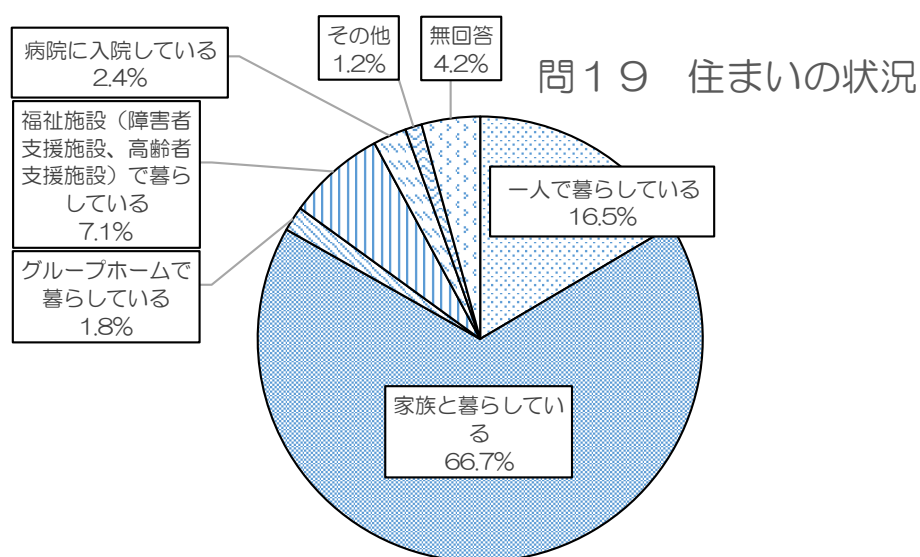
現在受けている医療的ケアは、「服薬管理」(44.6%)が最も多く、次いで、「透析」(13.4%)、「ストマ(人工肛門・人工膀胱)」(9.4%)となっています。

問18 現在受けている医療的ケア



問19 あなたは現在どのように暮らしていますか。(○は1つだけ)

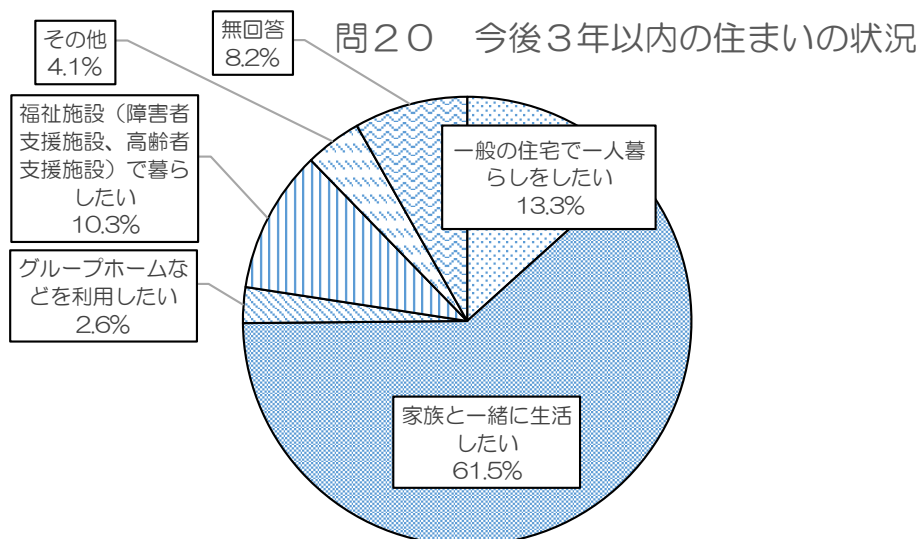
住まいの状況は、「家族と暮らしている」(66.7%)が最も多く、次いで、「一人で暮らしている」(16.5%)、「福祉施設(障害者支援施設、高齢者支援施設)で暮らしている」(7.1%)となっています。



問20 あなたは今後3年以内にどのような暮らしをしたいと思いますか。

(○は1つだけ)

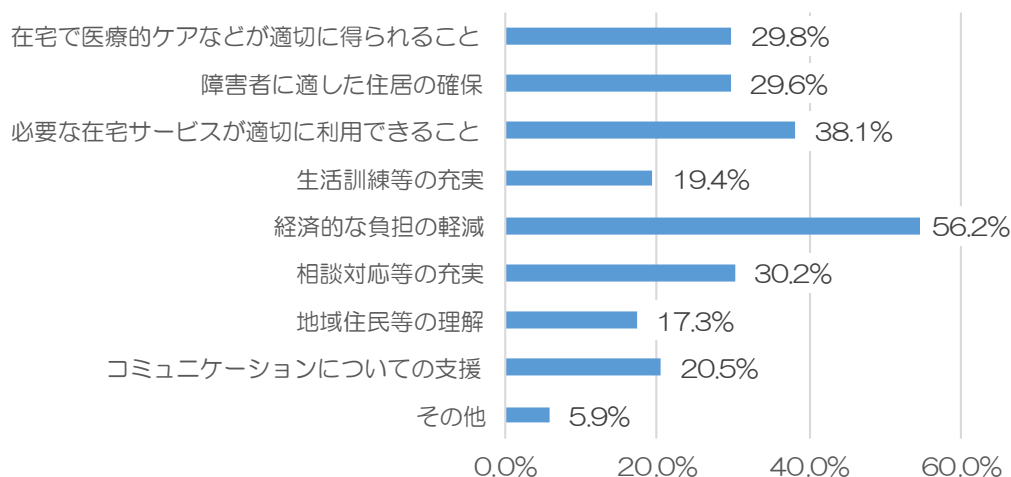
今後3年以内の住まいの状況については、「家族と一緒に生活したい」(61.5%)が最も多く、次いで、「一般の住宅で一人暮らしをしたい」(13.3%)、「福祉施設(障害者支援施設、高齢者支援施設)で暮らしをしたい」(10.3%)となっています。



問21 希望する暮らしを送るためには、どのような支援があればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

希望する暮らしを送るためには、経済的な支援や、在宅サービスの利用を希望する人が多くなっています。

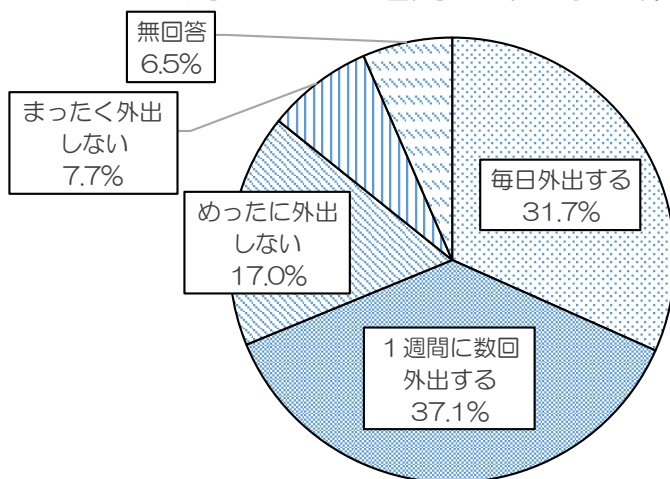
問21 希望する支援



問22 あなたは、1週間にどの程度外出しますか。(〇は1つだけ)

1週間に外出する頻度は、「1週間に数回外出する」(37.1%)が最も多く、次いで、「毎日外出する」(31.7%)となっており、外出する人が7割近くを占めています。

問22 1週間に外出する頻度

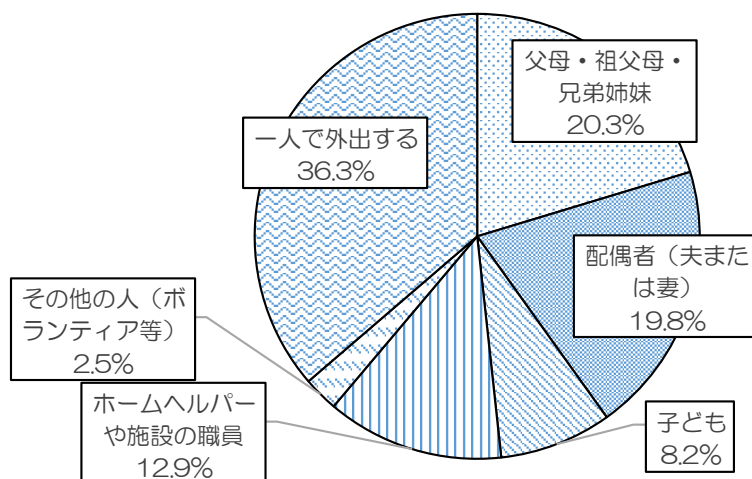


問23 あなたが外出する際の主な同伴者は誰ですか。(〇は1つだけ)

※【問23から問25は、問22で、「まったく外出しない」以外を選択した方がお答えください】

外出する際の主な同伴者は、「父母・祖父母・兄弟姉妹」(20.3%)が最も多く、次いで、「配偶者(夫または妻)」(19.8%)、「ホームヘルパーや施設の職員」(12.9%)となっています。

問23 外出する際の主な同伴者

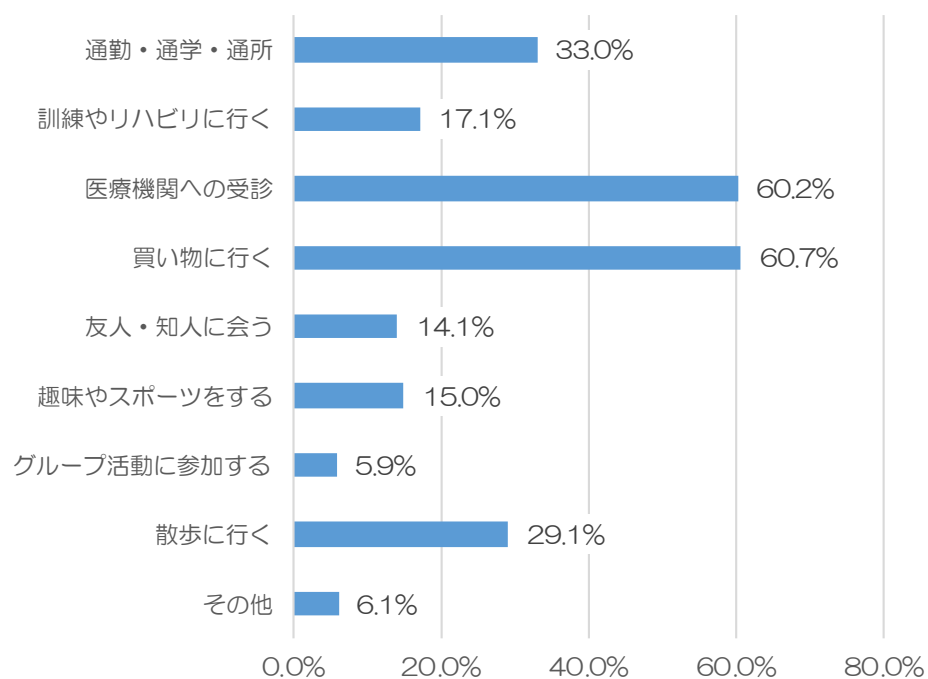


問24 あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。

(あてはまるものすべてに○)

外出する目的は、「買い物に行く」(60.7%)、「医療機関への受診」(60.2%)が多くなっています。

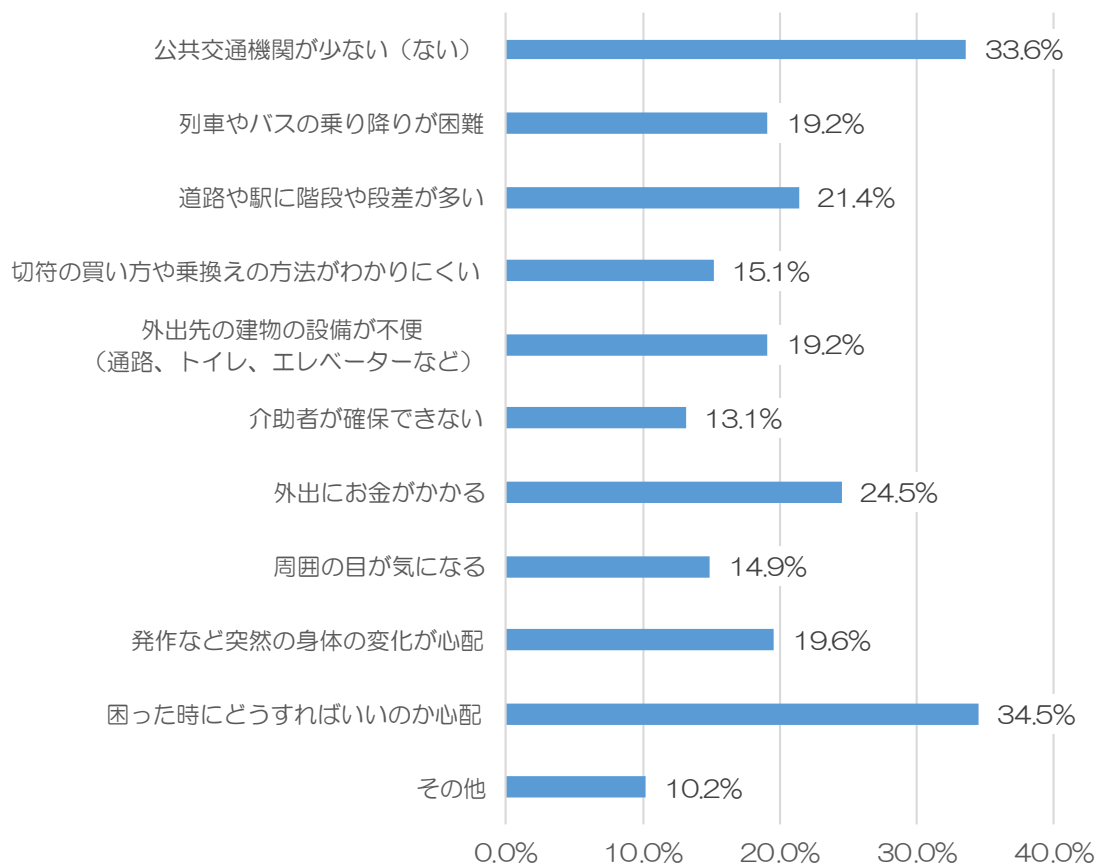
問24 外出する目的



問25 外出する時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

外出するときに困ることは、「困った時にどうすればいいのか心配」(34.5%)や、「公共交通機関が少ない(ない)」(33.6%)が多くなっています。

問25 外出時に困ること

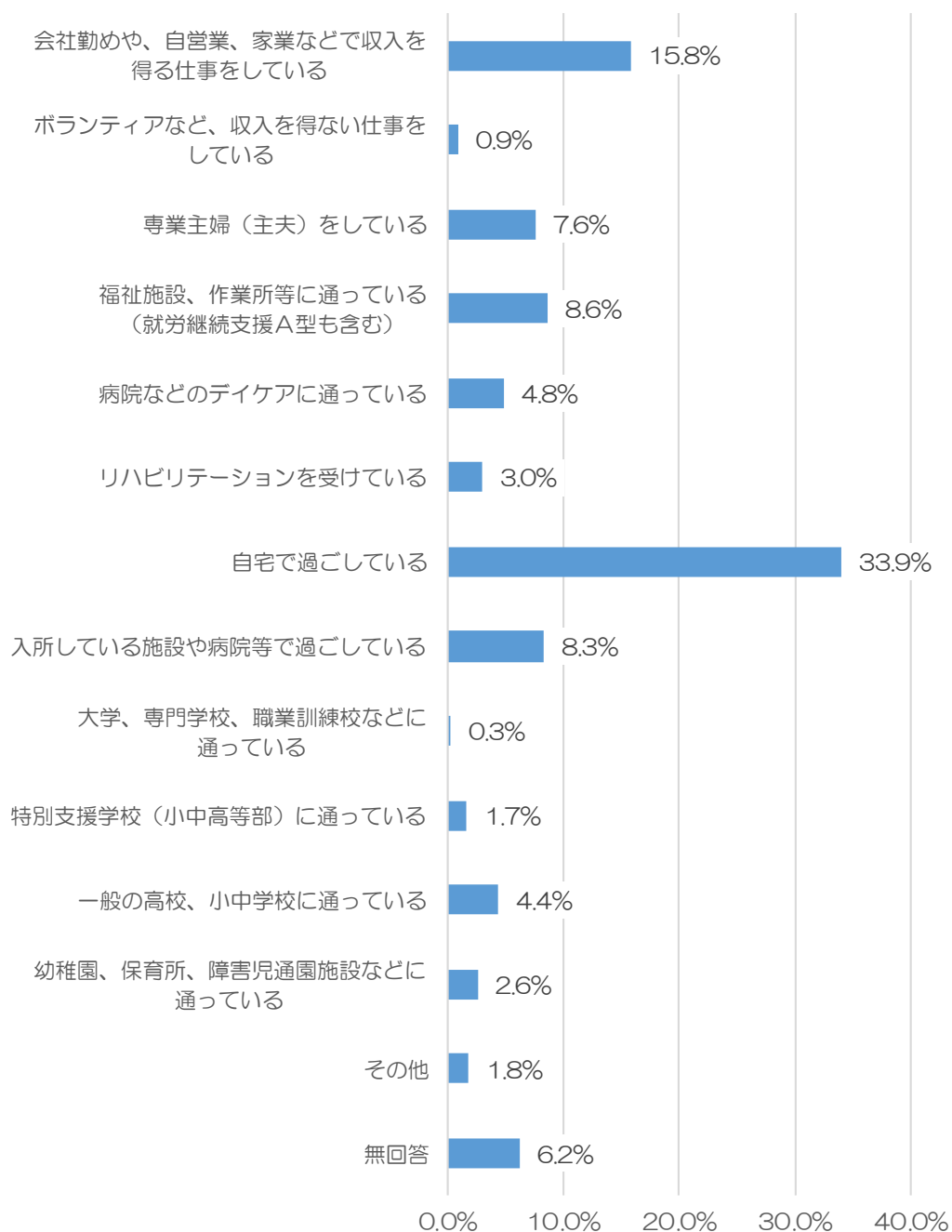


問26 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。

(〇は1つだけ)

平日の日中の過ごし方は、自宅で過ごしている人が突出して高くなっています。

問26 平日の日中の過ごし方

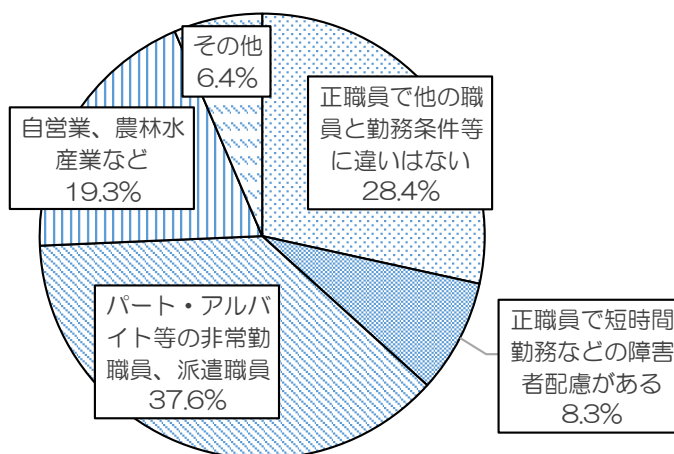


問27 どのような勤務形態で働いていますか。(〇は1つだけ)

※【問27は、問26で「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得る仕事をしている」を選択した場合にお答えください。】

勤務形態は、「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」(37.6%)が最も多く、次いで、「正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない」(28.4%)、「自営業、農林水産業など」(19.3%)となっています。

問27 勤務形態

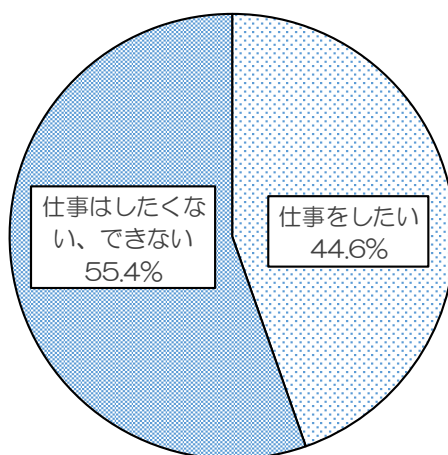


問28 あなたは今後、収入を得る仕事をしたいと思いますか。(〇は1つだけ)

※【問28は、問26で「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得る仕事をしている」以外を選択した18～64歳の方がお答えください】

今後、収入を得る仕事については、「仕事をしたい」(44.6%)、「仕事はしたくない、できない」(55.4%)となっています。

問28 今後収入を得る仕事への就職

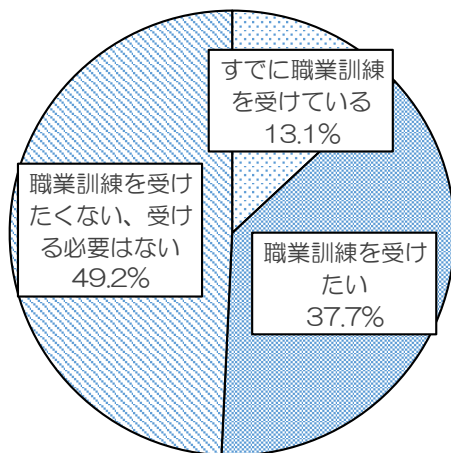


問29 収入を得る仕事をするために、職業訓練などを受けたいと思いますか。(〇は1つだけ)

※【問29は、問28で「仕事をしたい」を選択した方がお答えください】

収入を得る仕事をするために、すでに職業訓練を受けている人や、職業訓練を受けたい人が半数以上を占めています。

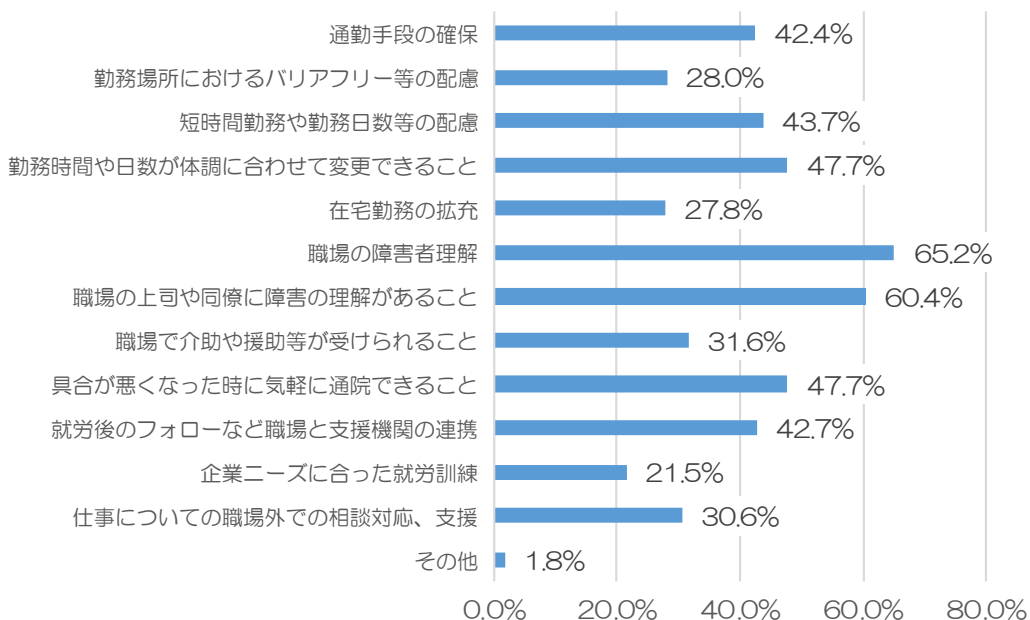
問29 職業訓練への参加



問30 あなたは、障害者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに〇)

障害者の就労支援に必要なだと思うことは、「職場の障害者理解」(65.2%)や、「職場の上司や同僚に障害の理解があること」(60.4%)が多くなっています。

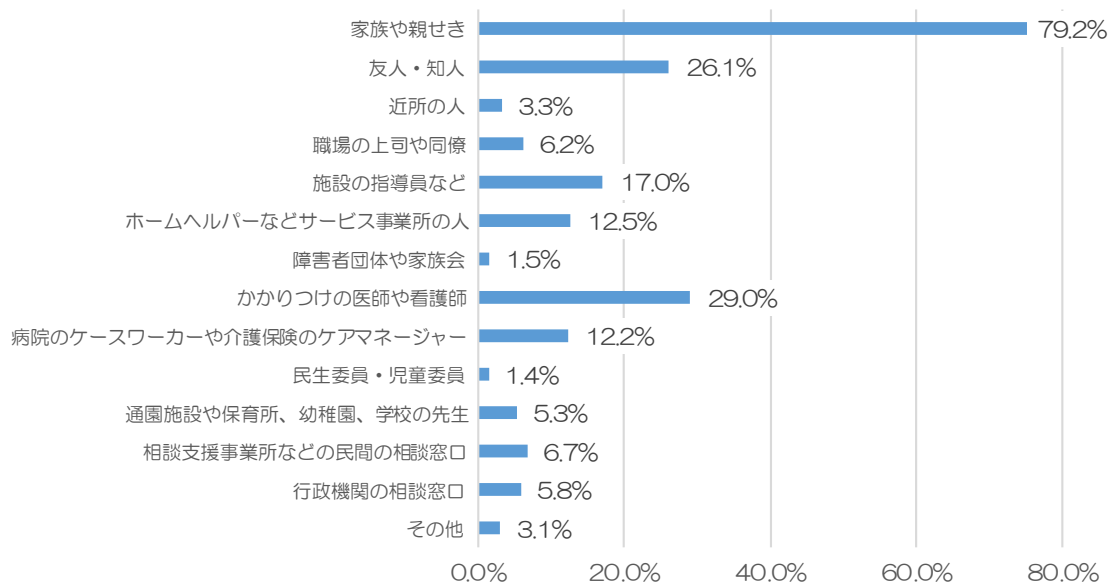
問30 就労支援に必要なこと



問31 あなたは普段、悩みや困ったことをどなたに相談しますか。
 (あてはまるものすべてに○)

悩みや困ったことの相談相手は、「家族や親せき」(79.2%)が突出して高くなっています。

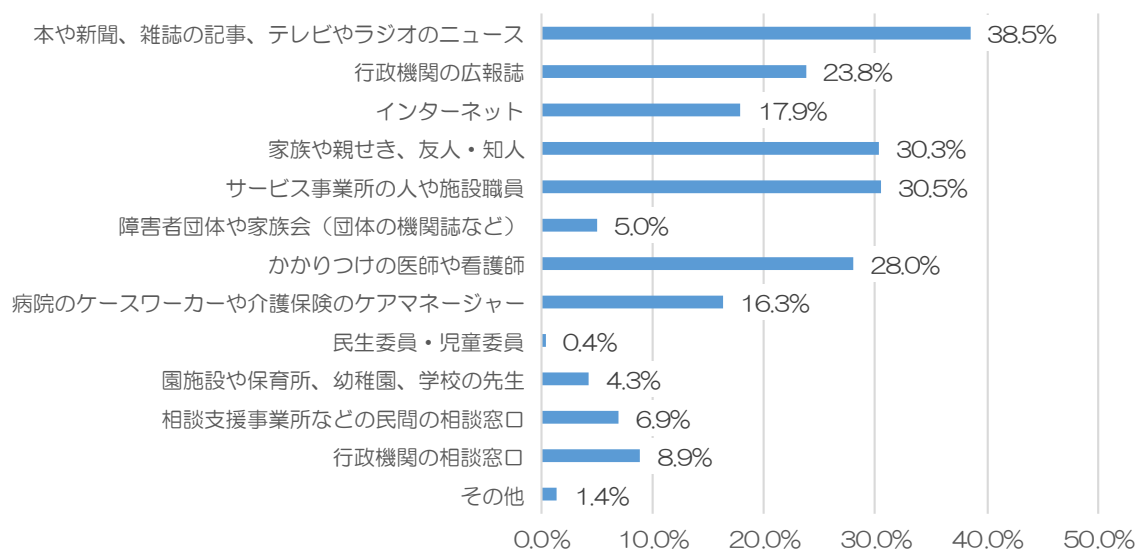
問31 相談相手



問32 あなたは障害のことや福祉サービスなどに関する情報を、どこから知ることが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

障害のことや福祉サービスなどに関する情報源は、「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」(38.5%)が最も多く、次いで、「サービス事業所の人や施設職員」(30.5%)、「家族や親せき、友人・知人」(30.3%)となっています。

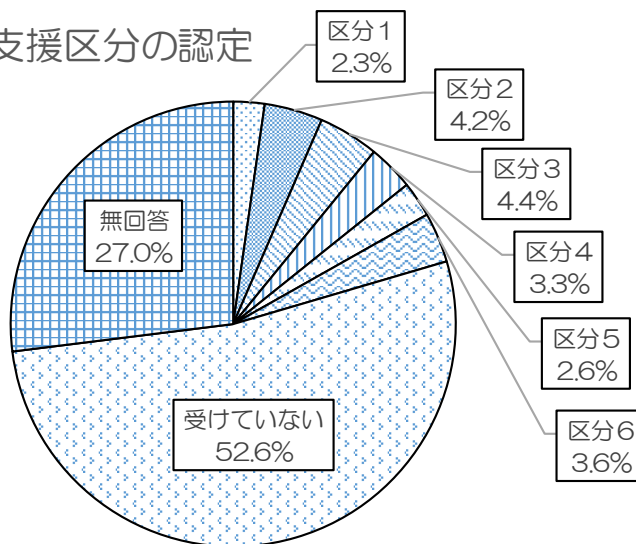
問32 障害のことや福祉サービスなどに関する情報源



問33 あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。(〇は1つだけ)

障害支援区分の認定を受けている人は2割程度を占めています。

問33 障害支援区分の認定

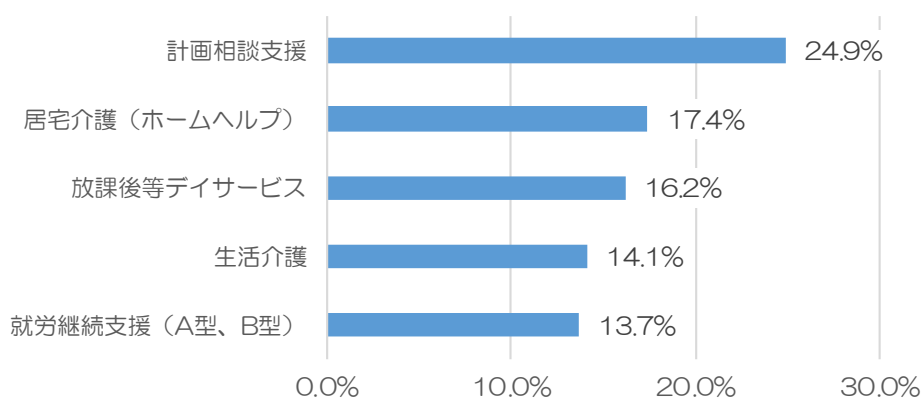


問34 現在利用中のサービスについて①～⑯の番号を記入し、今後3年以内の利用予定についてあてはまるものに○をつけてください。

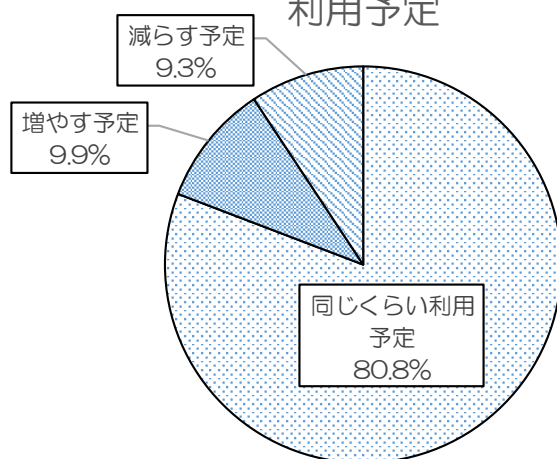
現在利用中のサービスは、「計画相談支援」(24.9%)が最も多く、次いで、「居宅介護(ホームヘルプ)」(17.4%)、「放課後等デイサービス」(16.2%)となっています。

また、今後3年以内の利用予定については、同じくらい利用予定する人が8割以上を占めています。

問34 利用中のサービス(上位5つ)



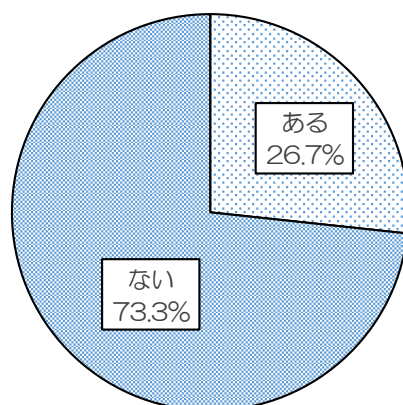
問34 利用中のサービスの今後3年以内の利用予定



問35 現在利用していないサービスで、今後3年以内に新たに利用したいサービスはありますか。(〇は1つだけ)

今後3年以内に新たに利用したいサービスは、「ある」(26.7%)、「ない」(73.3%)となっています。

問35 今後3年以内に新たに利用したいサービスの有無

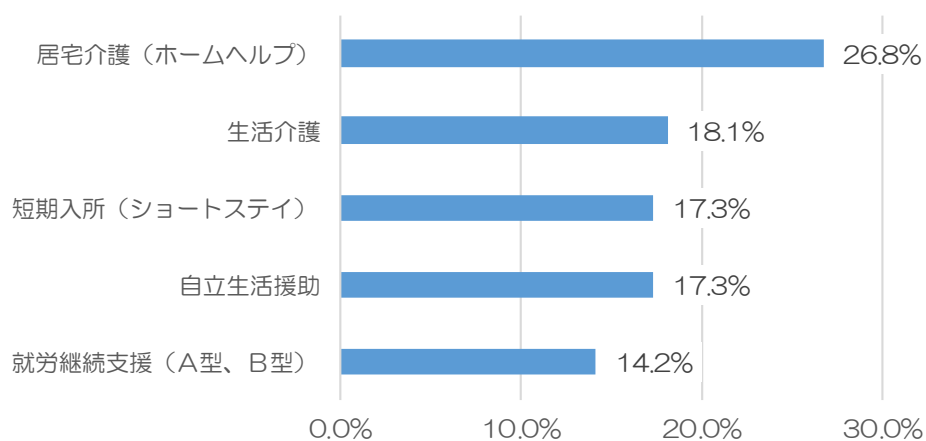


問36 現在利用していないサービスで、今後3年以内に新たに利用したいサービスがあれば教えてください。(あてはまるものすべてに〇)

※【問35で「ある」を選択された方がお答えください】

今後3年以内に新たに利用したいサービスは、「居宅介護(ホームヘルプ)」(26.8%)が最も多く、次いで、「生活介護」(18.1%)、「短期入所(ショートステイ)」「自立生活援助」(各17.3%)となっています。

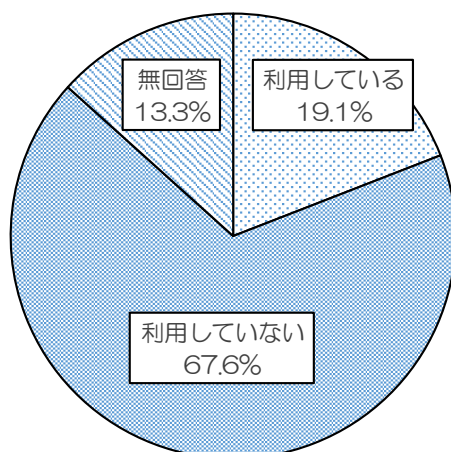
問36 今後3年以内に新たに利用したいサービス(上位5つ)



問37 あなたは介護保険によるサービスを利用していますか。(〇は1つだけ)

介護保険によるサービスは、「利用している」(19.1%)、「利用していない」(67.6%)
となっています。

問37 介護保険によるサービスの利用

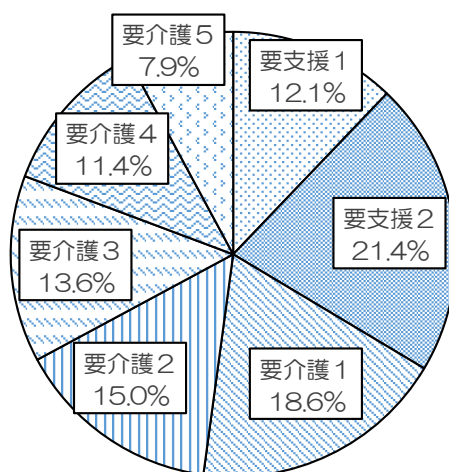


問38 該当する要介護度はどれですか。(〇は1つだけ)

※【問38、39は、問37で、「利用している」を選択された方がお答えください】

要介護の認定を受けている人は6割以上を占めています。

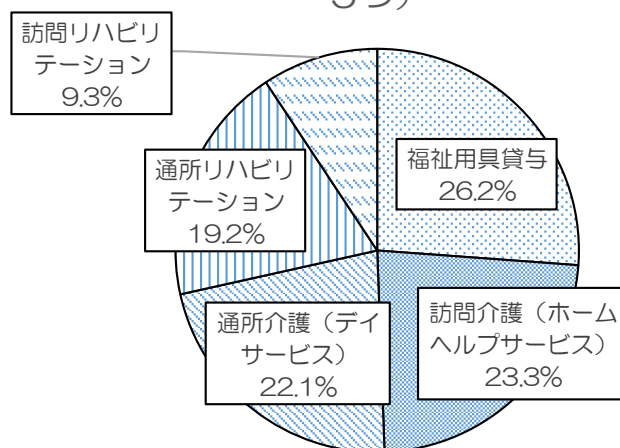
問38 要介護度



問39 利用している介護保険サービスはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

利用している介護保険サービスは、「福祉用具貸与」(26.2%)が最も多く、次いで、「訪問介護(ホームヘルプサービス)」(23.3%)、「通所介護(デイサービス)」(22.1%)となっています。

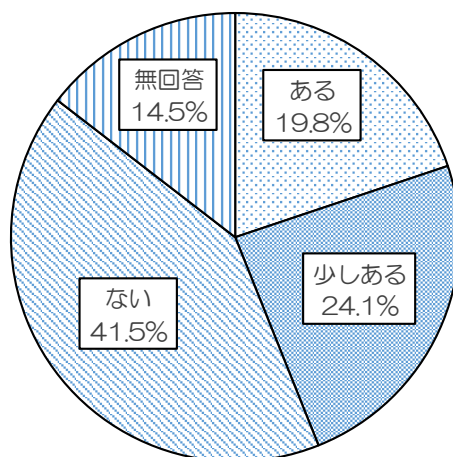
問39 利用している介護保険サービス(上位5つ)



問40 あなたは、障害があることで差別や嫌な思いをする(した)ことがありますか。(○は1つだけ)

障害があることで差別や嫌な思いをする(した)ことは、「ある」(19.8%)と「少しある」(24.1%)をあわせて、4割以上の方が経験しています。

問40 差別や嫌な思いをする(した)経験

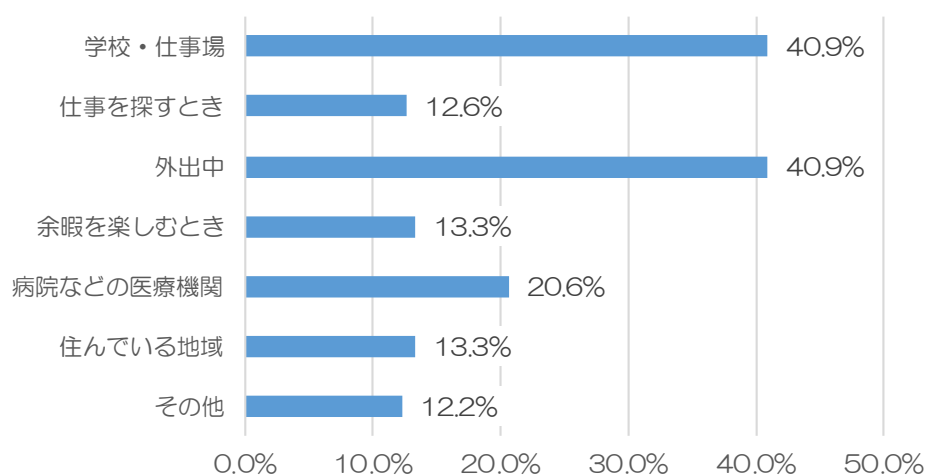


問41 どのような場所で差別や嫌な思いをしましたか。(あてはまるものすべてに○)

※【問40で、「ある」または「少しある」と回答された方にお聞きします】

差別や嫌な思いをした場所は、「学校・仕事場」「外出中」(各40.9%)が最も多く、次いで、「病院などの医療機関」(20.6%)、「余暇を楽しむとき」「住んでいる地域」(各13.3%)となっています。

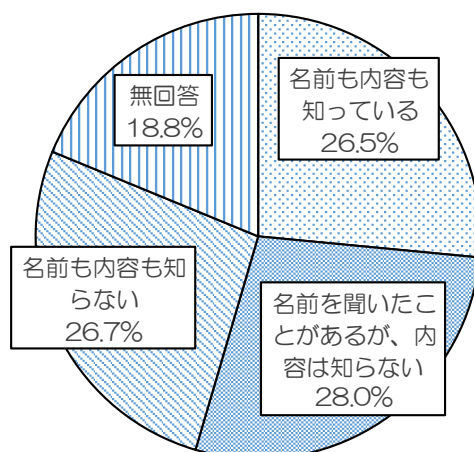
問41 差別や嫌な思いをした場所



問42 成年後見制度についてご存じですか。(○は1つだけ)

成年後見制度の認知について、「名前も内容も知っている」(26.5%)、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」(28.0%)、「名前も内容も知らない」(26.7%)と、それぞれ同程度の割合を占めています。

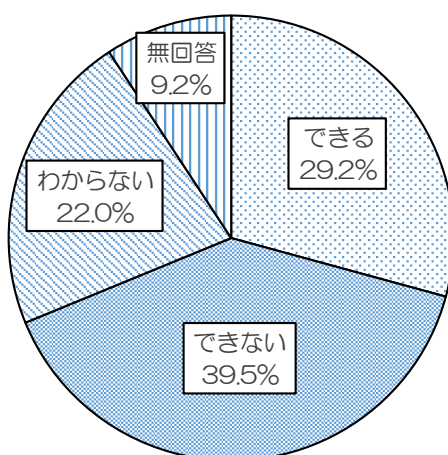
問42 成年後見制度の認知度



問43 あなたは、火事や地震等の災害時に一人で避難できますか。(〇は1つだけ)

災害時における一人での避難は、「できない」(39.5%)が最も多くなっています。

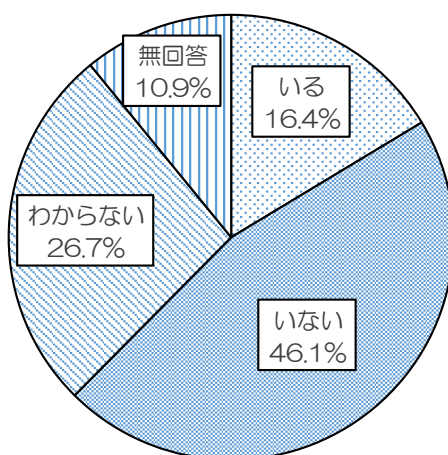
問43 災害時における一人での避難



問44 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。(〇は1つだけ)

近所における介助者は、4割以上の方が「いない」と最も多くなっています。

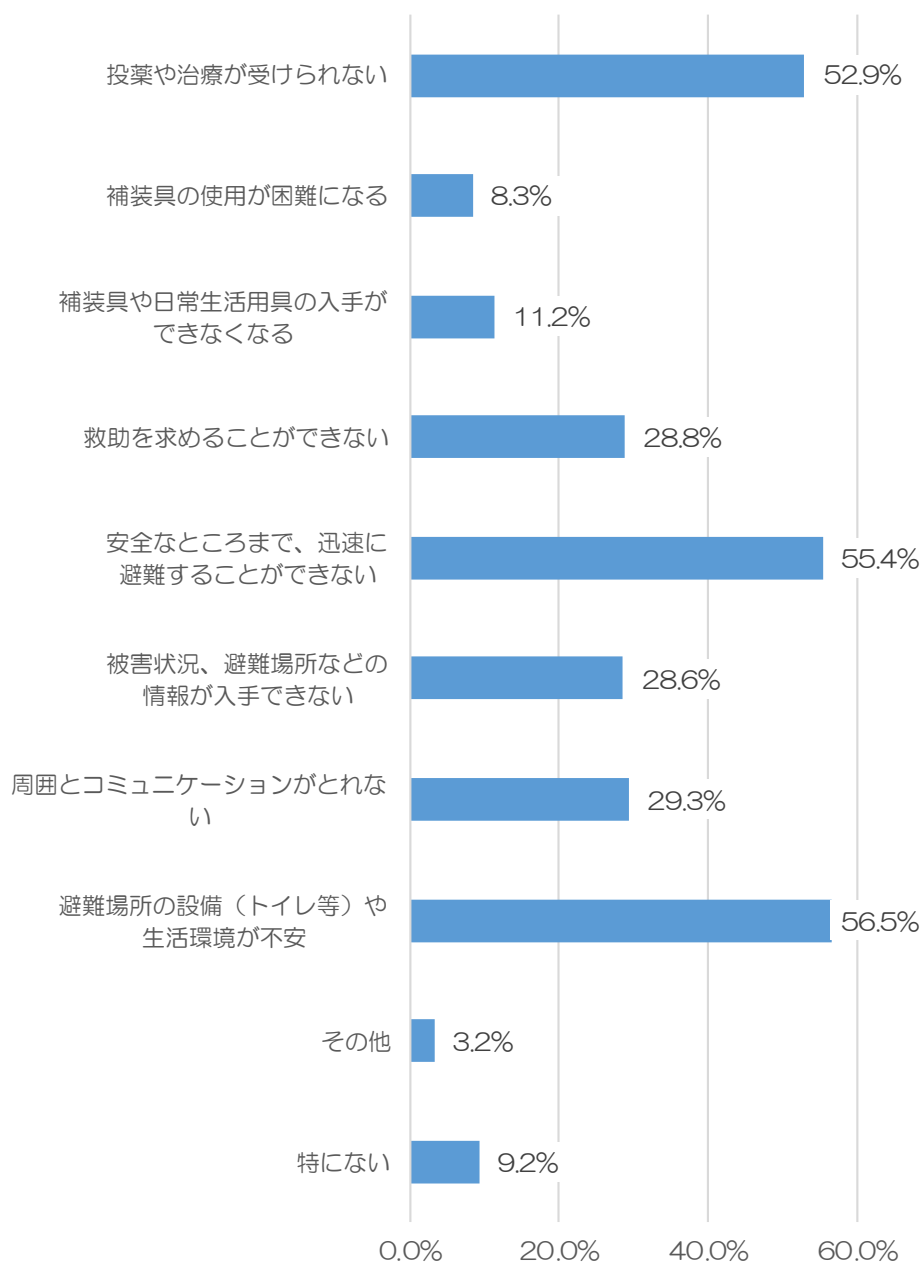
問44 近所における介助者の有無



問45 火事や地震等の災害時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

災害時に困ることは、「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」（56.5%）が最も多く、次いで、「安全なところまで、迅速に避難することができない」（55.4%）、「投薬や治療が受けられない」（52.9%）となっています。

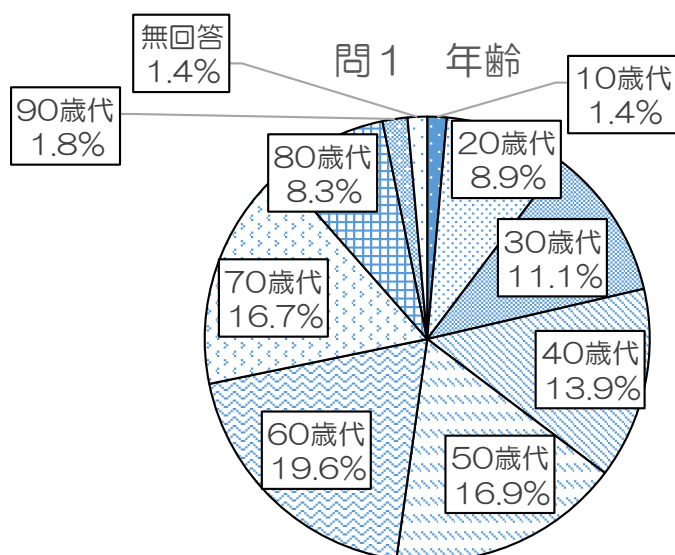
問45 災害時に困ること



(2) 「その他の市民を対象とした調査」の結果

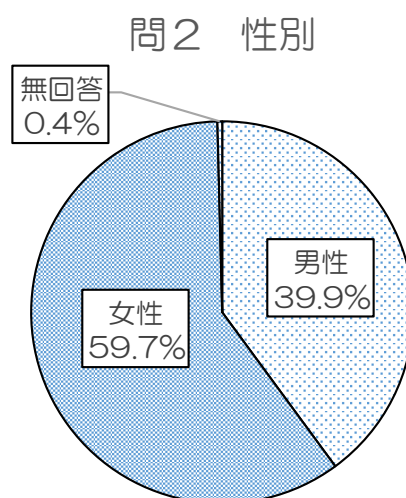
問1 あなたの年齢をお答えください。(令和2年8月1日現在)

回答者の年齢は、「60歳代」(19.6%)が最も多く、次いで「50歳代」(16.9%)、「70歳代」(16.7%)となっています。



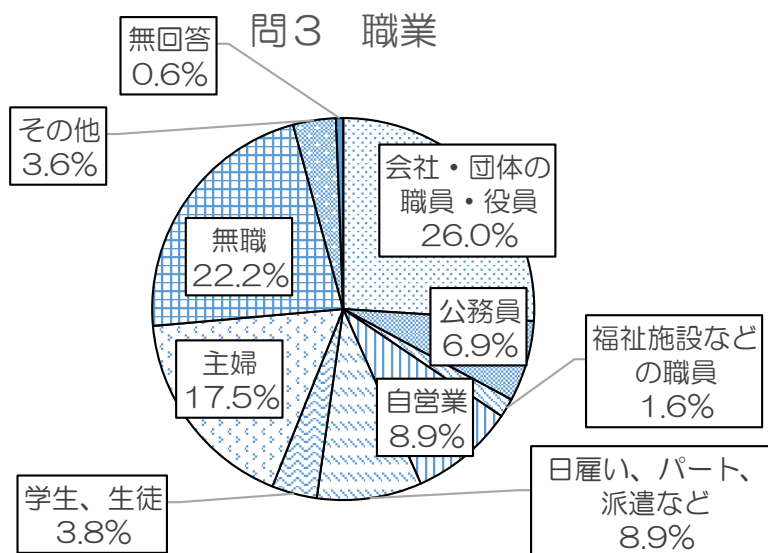
問2 あなたの性別をお答えください。(〇は1つだけ)

回答者の性別は、「男性」(39.9%)、「女性」(59.7%)となっています。



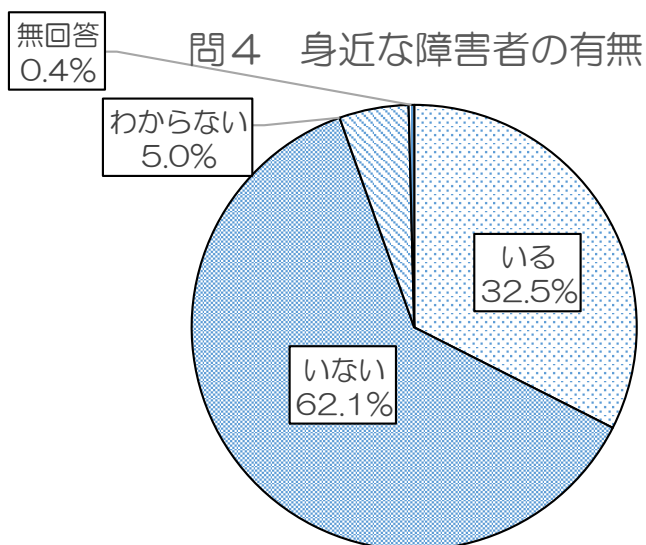
問3 あなたの職業をお答えください。(〇は1つだけ)

職業は、「会社・団体の職員・役員」(26.0%)が最も多く、次いで「無職」(22.2%)、「主婦」(17.5%)となっています。



問4 あなたの身近に障害のある方はいますか。(〇は1つだけ)

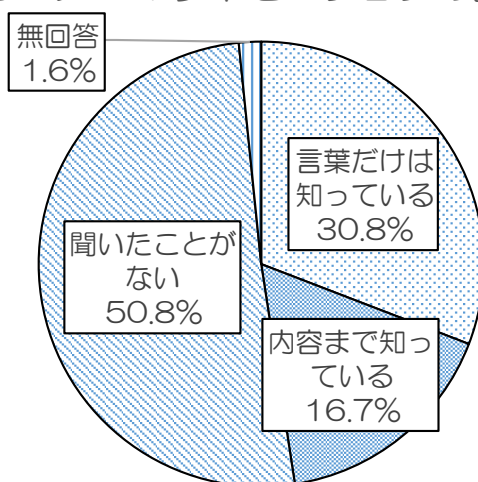
身近な障害者の有無は、「いる」(32.5%)、「いない」(62.1%)と「いない」が半数以上を占めています。



問5 あなたは、「ノーマライゼーション※」という言葉を知っていますか。
(○は1つだけ)

※ノーマライゼーション：障害者を特別視するのではなく、一般社会の中で普通の生活が送れるような条件を整えるべきであり、共に生きる社会こそノーマルな社会であるとの考え方。
ノーマライゼーションの認知については、「聞いたことがない」人が半数以上を占め、「内容まで知っている」人は2割未満となっています。

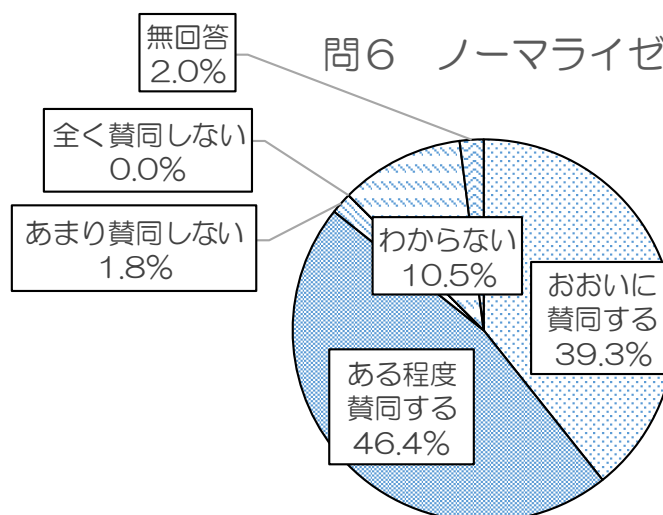
問5 ノーマライゼーションの認知度



問6 あなたは、「ノーマライゼーション」という考え方について、どう思いますか。(○は1つだけ)

ノーマライゼーションの考え方について、「おおいに賛同する」あるいは「ある程度賛同する」を合わせた『賛同する』という人が8割以上を占める結果となっています。

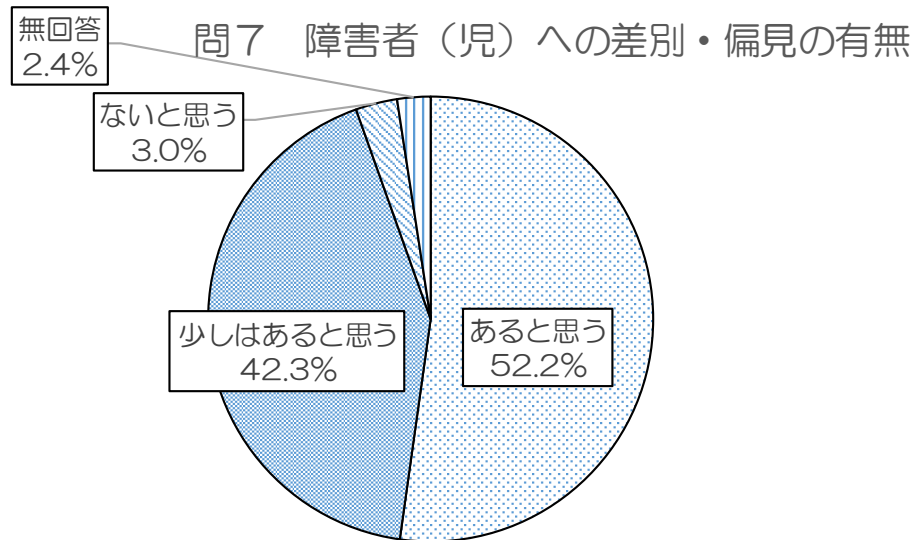
問6 ノーマライゼーションの考え方



問7 社会の中で、障害者(児)への差別、偏見があると思いますか。

(○は1つだけ)

障害者(児)への差別・偏見の有無について、ほとんどの人が『ある』と回答しています。

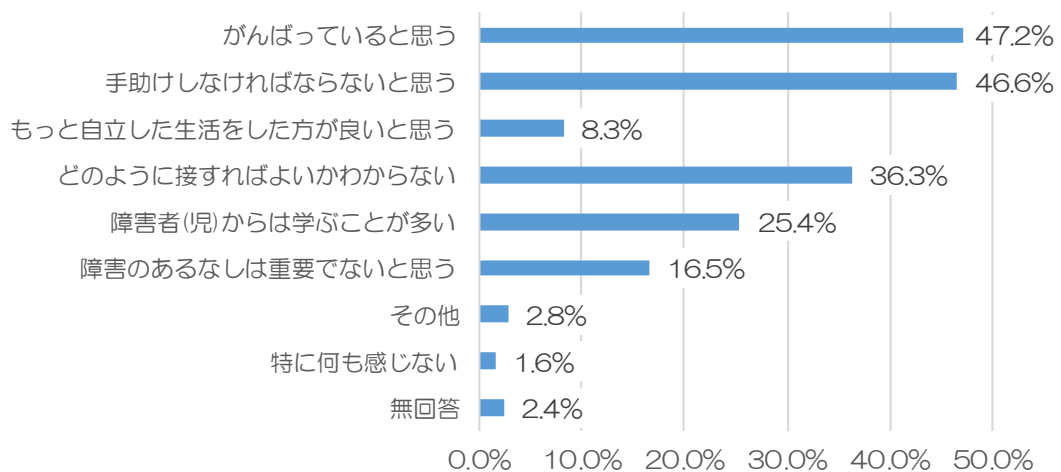


問8 あなたは、障害者(児)について、どのように感じていますか。

(あてはまるものすべてに○)

障害者(児)に対するイメージについて、「がんばっていると思う」(47.2%)が最も多く、次いで、「手助けしなければならないと思う」(46.6%)「どのように接すればよいかわからない」(36.3%)となっています。

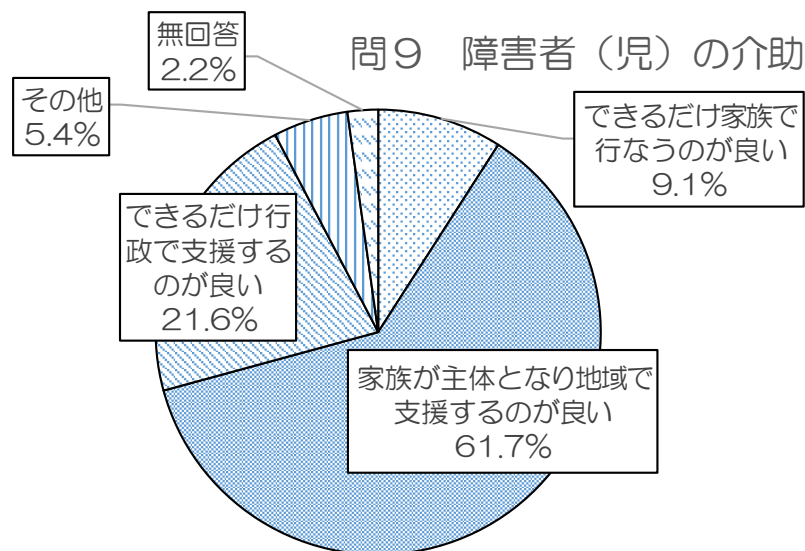
問8 障害者(児)に対するイメージ



問9 障害者(児)のお世話は主に誰がするのが良いと思いますか。

(○は1つだけ)

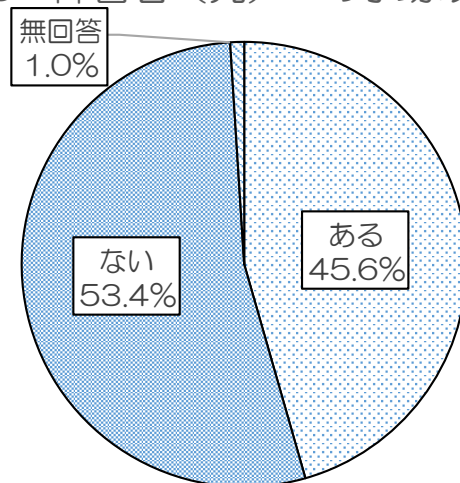
障害者(児)の介助について、「家族が主体となり地域で支援するのが良い」が6割を超えて大半を占めており、家族や行政だけで支援するのではなく、地域でも支援すべきと考える人が多い結果となっています。



問10 これまでに障害者(児)と気軽に接したり、手助けをしたことがありますか。(○は1つだけ)

障害者への手助けの有無について、「ある」(45.6%)、「ない」(53.4%)となっています。

問10 障害者(児)への手助けの有無

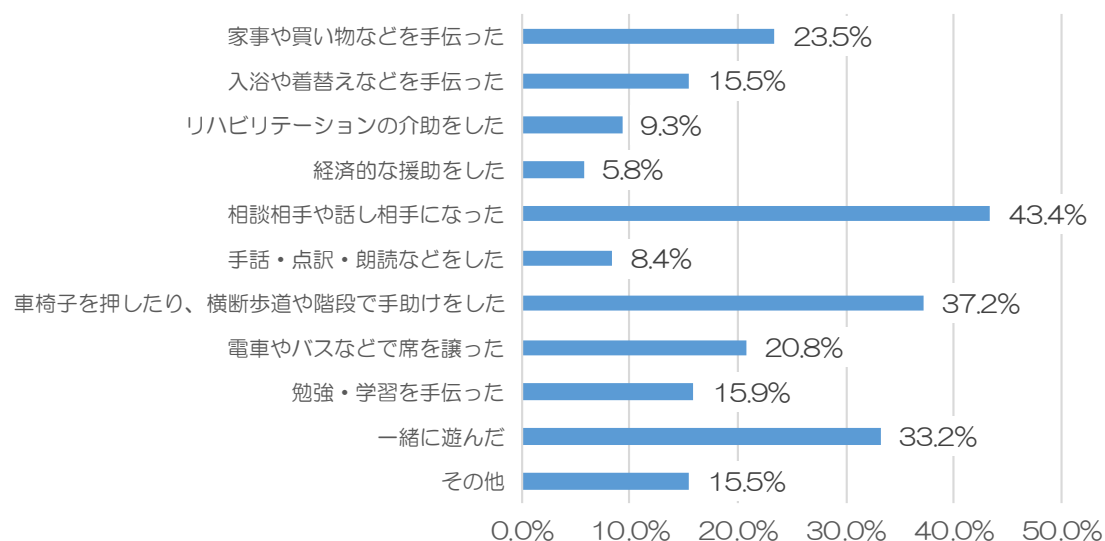


問10-1 それはどのようなことでしたか。(あてはまるものすべてに○)

※問10で「ある」を選択した方のみお答えください。

手助けの内容については、「相談相手や話し相手になった」(43.4%)が最も多く、次いで、「車椅子を押ししたり、横断歩道や階段で手助けをした」(37.2%)、「一緒に遊んだ」(33.2%)となっています。

問10-1 障害者(児)への手助けの内容

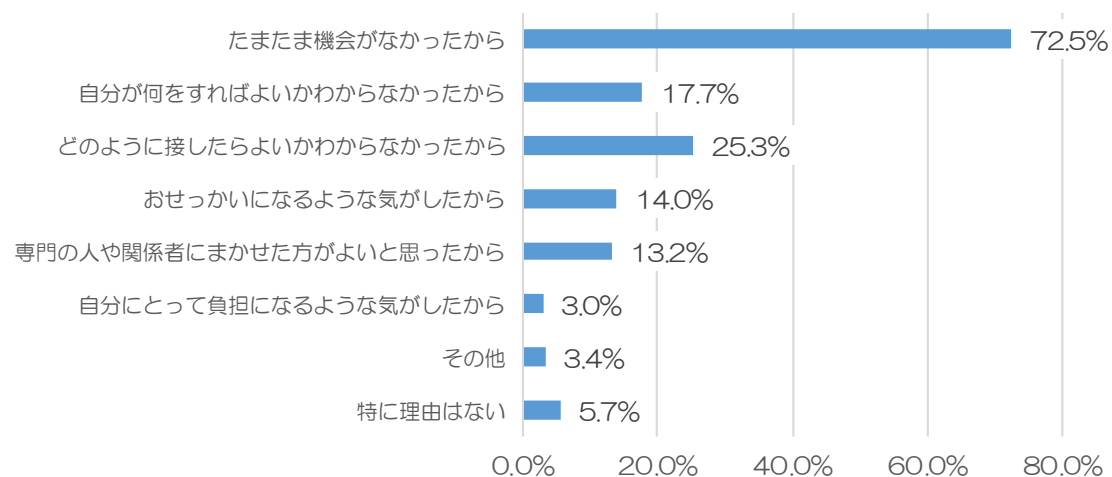


問10-2 話や手助けをしたことがない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

※問10で「ない」を選択した方のみお答えください。

障害者(児)への手助けをしたことがない理由について、「たまたま機会がなかったから」(72.5%)が大半を占め最も多くなっています。

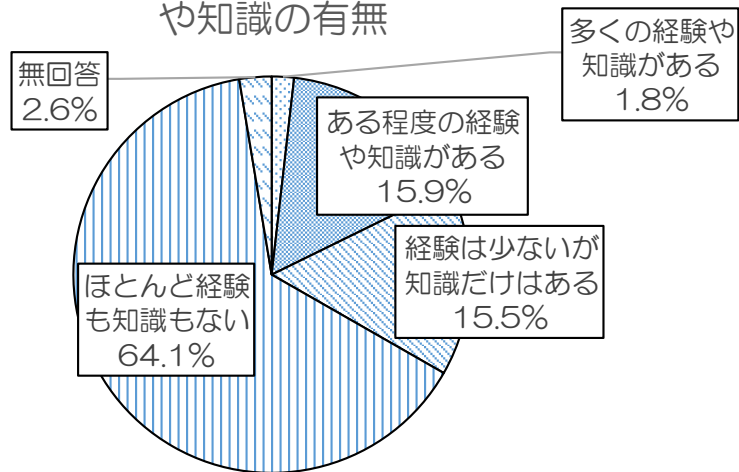
問10-2 障害者(児)への手助けをしたことがない理由



問11 あなたは、障害者(児)を介助・介護した経験や知識がありますか。(○は1つだけ)

障害者(児)を介助・介護した経験や知識の有無について、「ほとんど経験も知識もない」人が6割を超えて大半を占めています。

問11 障害者(児)を介助・介護した経験や知識の有無

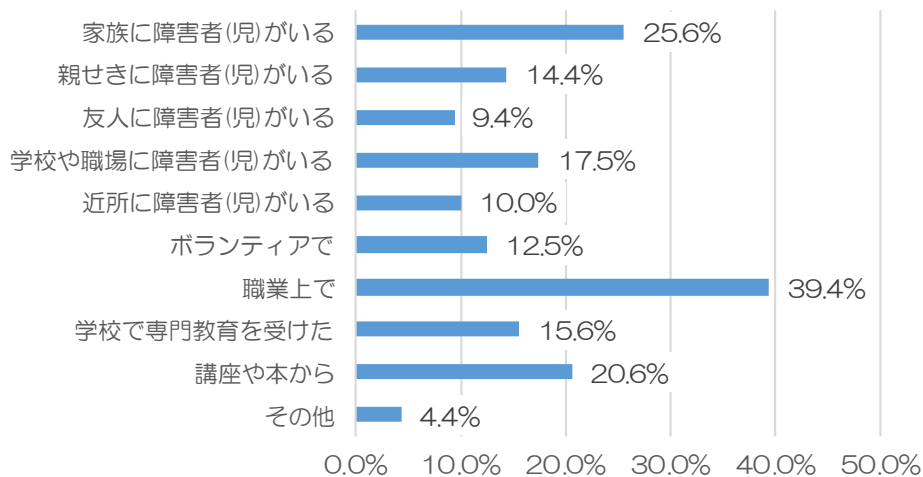


問11-1 介助・介護の経験や知識がある理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

※問11で「ほとんど経験も知識もない」以外を選択した方のみお答えください。

介助・介護の経験や知識がある理由について、職業上や家族に障害者(児)がいる人が多くなっています。

問11-1 介助・介護の経験や知識がある理由

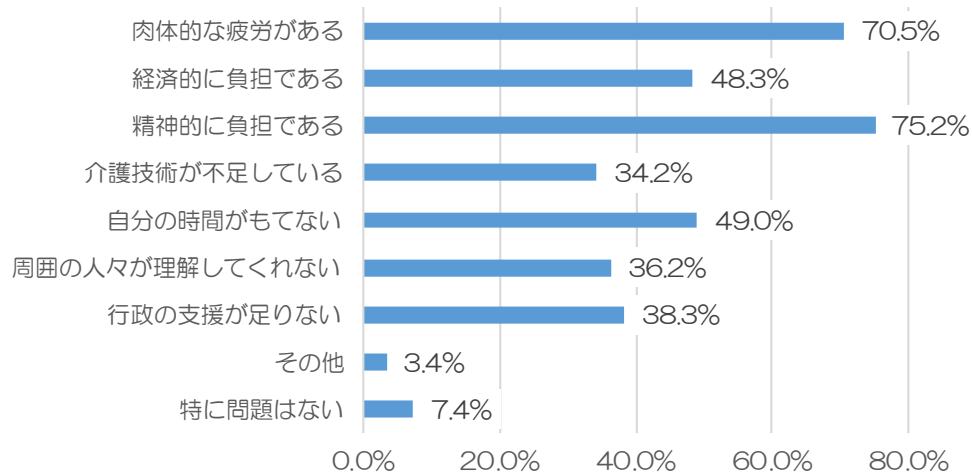


問11-2 家庭で介助・介護する上での問題点は、どのようなことだと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

※問11で「ほとんど経験も知識もない」以外を選択した方のみお答えください。

家族で介助・介護をする上での問題点について、介助者の肉体的・精神的な負担が問題となっています。

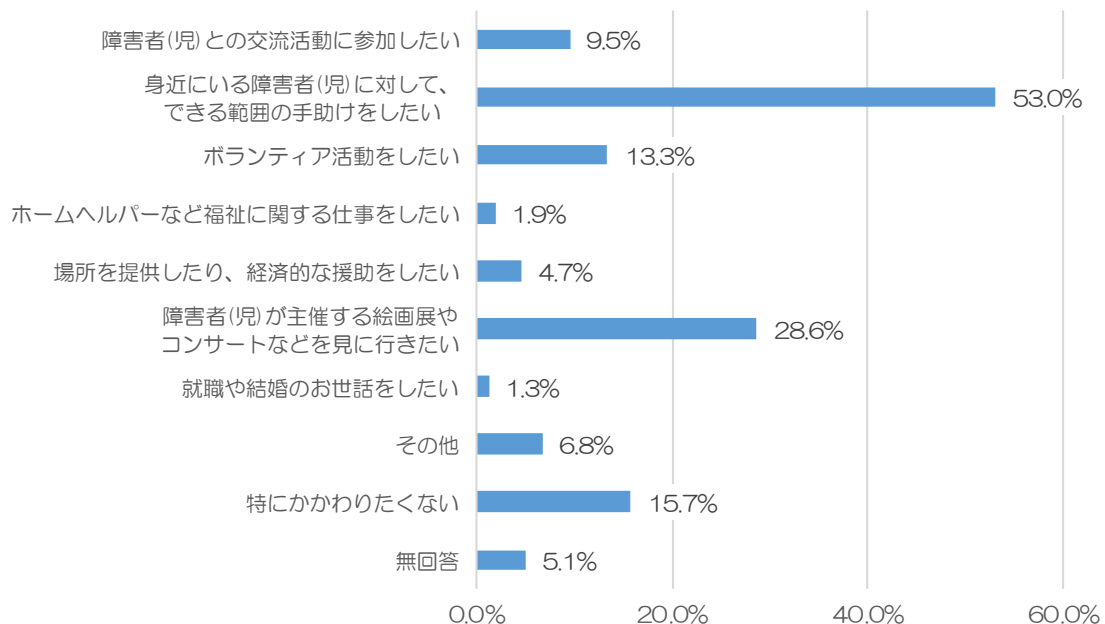
問11-2 家庭で介助・介護する上での問題点



問12 今後、障害者(児)のある人とかかわるとすれば、具体的にはどのような形でかかわりたいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

今後の障害者(児)との関わりについて、「身近にいる障害者(児)に対して、できる範囲の手助けをしたい」が半数以上を占め、他の項目と比較しても突出して高い割合となっています。

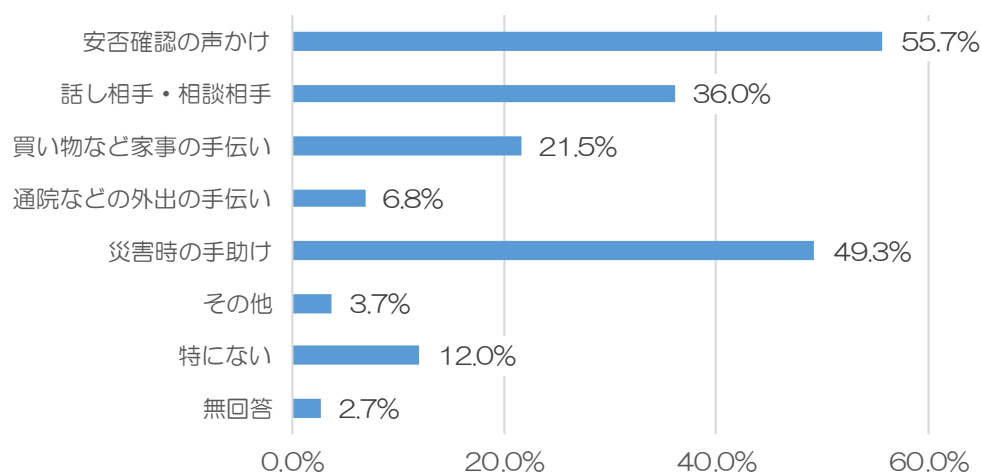
問12 今後の障害者(児)との関わり



問13 隣近所に、障害者(児)の介助・介護などで困っている家庭があった場合、あなたは、どのような手助けができると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

障害者(児)がいる家庭との関わりについて、「安否確認の声かけ」(55.7%)が最も多く、次いで「災害時の手助け」(49.3%)、「話し相手・相談相手」(36.0%)となっています。

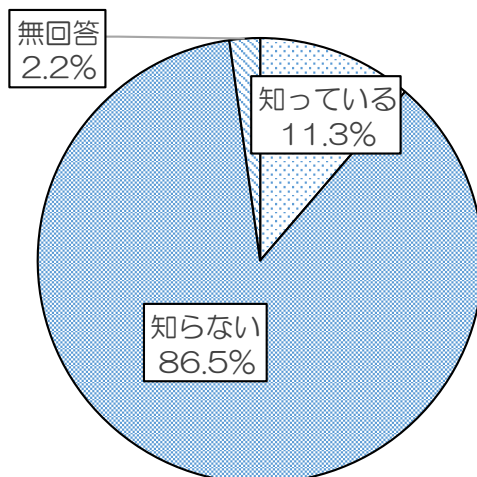
問13 障害者(児)がいる家庭との関わり



問14 地域には、障害のある本人やその家族の組織として障害種別ごとに、それぞれの目的にそった活動をしている障害者団体があります。あなたは、障害者団体について知っていますか。(○は1つだけ)

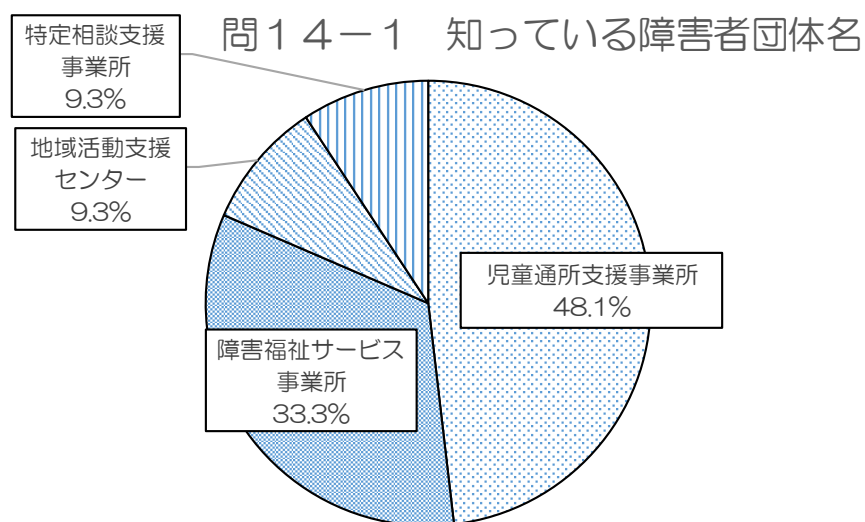
障害者団体の認知について、「知っている」(11.3%)、「知らない」(86.5%)と認知度は低くなっています。

問14 障害者団体の認知度



問14-1 知っている障害者団体名をお答えください。(いくつでも回答可)
 ※問14で「知っている」を選択した方のみお答えください。

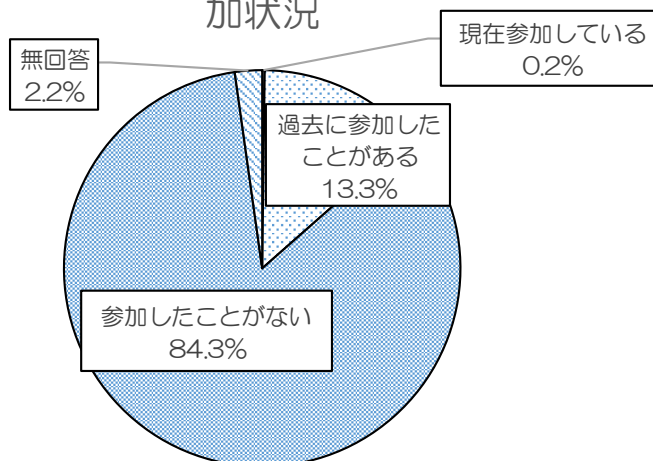
知っている障害者団体名は、「児童通所支援事業所」(48.1%)が最も多く、次いで「障害福祉サービス事業所」(33.3%)、「地域活動支援センター」「特定相談支援事業所」(各9.3%)となっています。



問15 障害者(児)の福祉関係のボランティア活動に参加したことがありますか。(〇は1つだけ)

福祉関係のボランティア活動への参加状況について、8割以上の方が未参加となっています。

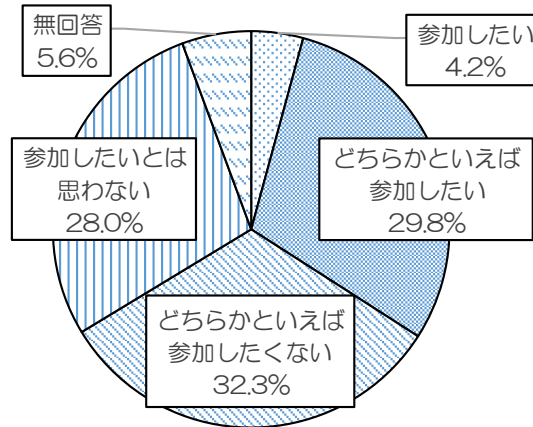
問15 福祉関係のボランティア活動への参加状況



問16 今後、障害者(児)の福祉関係のボランティア活動に参加したいと思いませんか。(〇は1つだけ)

福祉関係のボランティア活動への今後の参加意向について、「参加したい」と「どちらかといえば参加したい」を合わせた『参加したい』という人は3割以上を占めています。

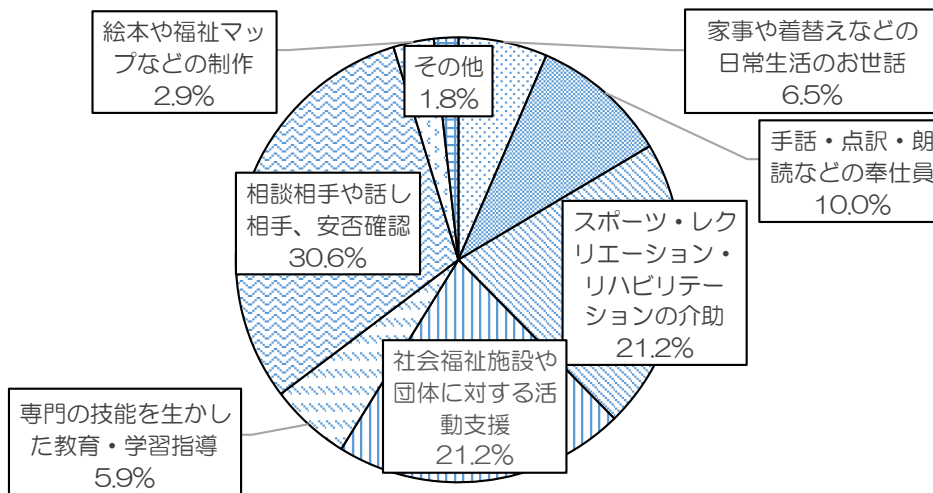
問16 福祉関係のボランティア活動への今後の参加意向



問16-1 参加したいと思う活動はどのような活動ですか。(〇は1つだけ)
 ※問16で「参加したい」または「どちらかといえば参加したい」を選択した方のみお答えください。

参加したいと思う活動内容について、「相談相手や話し相手、安否確認」や「スポーツ・レクリエーション・リハビリテーションの介助」、「社会福祉施設や団体に対する活動支援」が2割を超え、他の項目と比較しても高い割合となっています。

問16-1 参加したいと思う活動内容



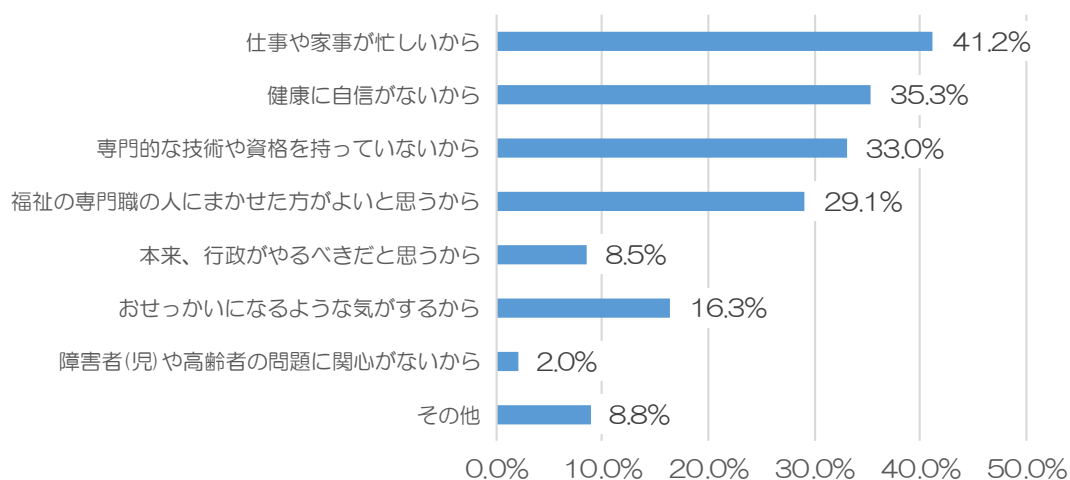
問16-2 ボランティア活動に参加したくない理由は何ですか。

(〇は3つまで)

※問16で「どちらかといえば参加したくない」または「参加したいとは思わない」を選択した方のみお答えください。

ボランティア活動に参加したくない理由について、「仕事や家事が忙しいから」(41.2%)が最も多く、次いで「健康に自信がないから」(35.3%)、「専門的な技術や資格を持っていないから」(33.0%)となっています。

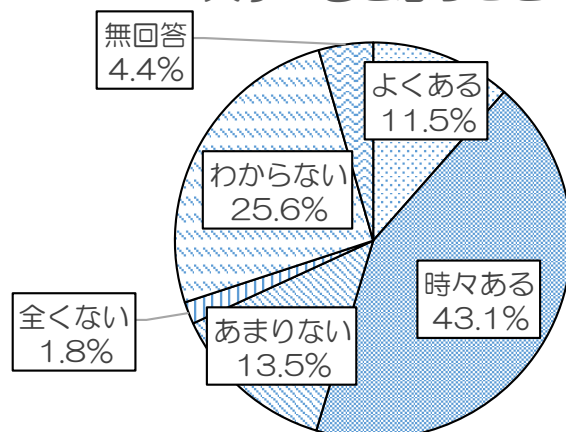
問16-2 ボランティア活動に参加したくない理由



問17 あなたは、日常生活の中で接するものや場所について、もう少し工夫すれば障害者(児)にも利用しやすくなるのに、と思うことはありますか。(〇は1つだけ)

障害者(児)の社会参加のために工夫すべきと思うことについて、「時々ある」(43.1%)が最も多く、「よくある」(11.5%)と合わせると半数以上の方が『ある』と感じていることが分かります。

問17 障害者(児)の社会参加のために工夫すべきと思うこと

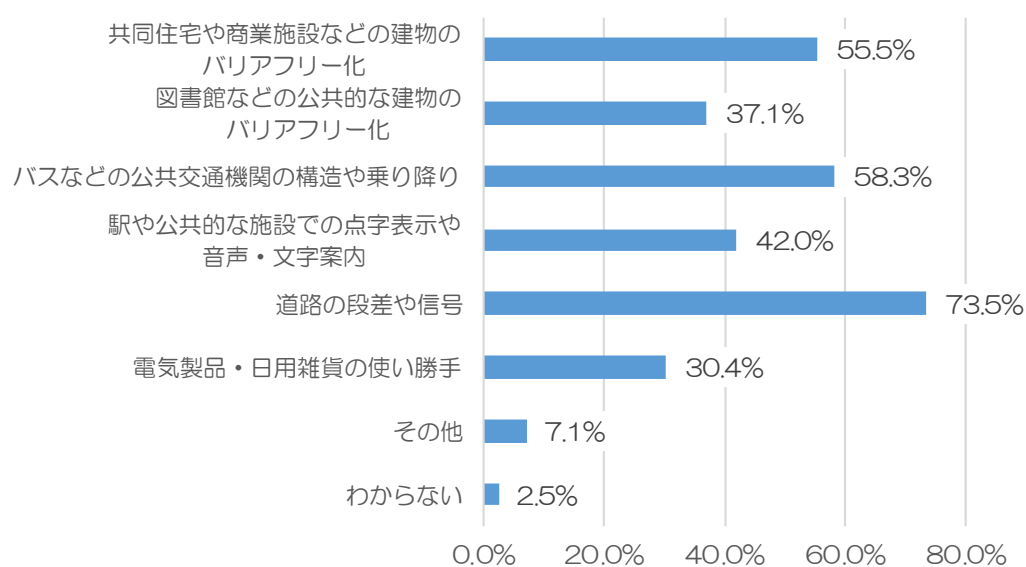


問17-1 それはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

※問17で「よくある」または「時々ある」を選択した方のみお答えください。

障害者(児)の社会参加のために工夫すべき内容について、「道路の段差や信号」(73.5%)が最も多く7割以上を占めています。次いで「バスなどの公共交通機関の構造や乗り降り」(58.3%)、「共同住宅や商業施設などの建物のバリアフリー化」(55.5%)となっています。

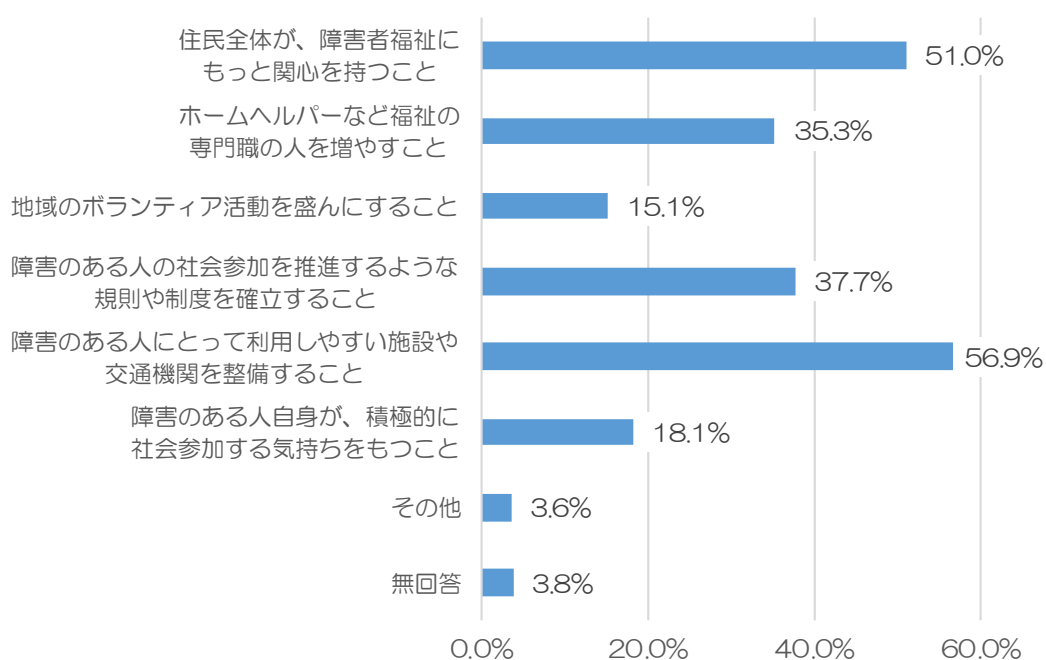
問17-1 障害者(児)の社会参加のために工夫すべき内容



問18 今後、障害者(児)が地域で自立して生活するためにどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

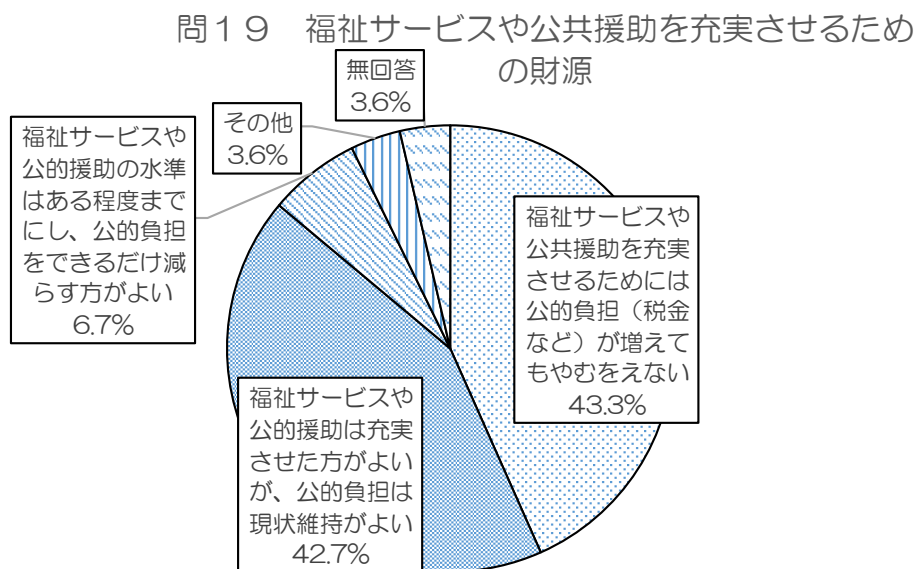
障害者(児)が地域で自立して生活するために必要だと思うことについて、「障害のある人にとって利用しやすい施設や交通機関を整備すること」(56.9%)、「住民全体が、障害者福祉にもっと関心を持つこと」(51.0%)が必要であると感じている人が多い結果となっています。

問18 障害者(児)が地域で自立して生活するために必要だと思うこと



問19 障害者(児)が家庭や地域の中で安心して生活するためには、福祉サービスや公共援助を充実させる必要があると言われています。これにともなう財源について、どのようにお考えですか。(〇は1つだけ)

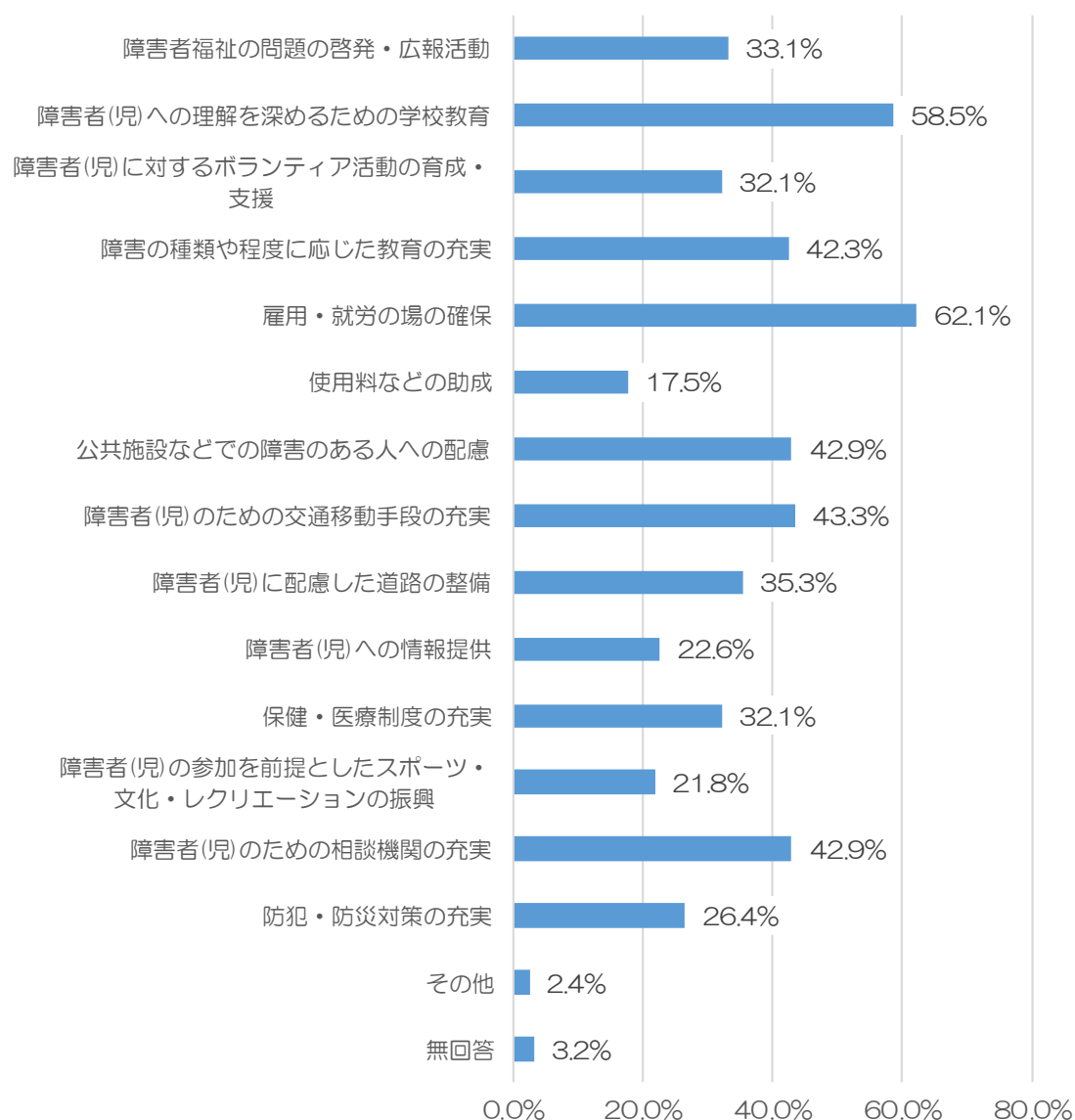
福祉サービスや公共援助を充実させるための財源について、福祉サービスや公的援助を望む人が大半を占めています。また、公的負担については、増加もしくは現状維持を望む人が多い結果となっています。



問20 障害者(児)にとって住みやすいまちをつくるために、今後どのようなことが重要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

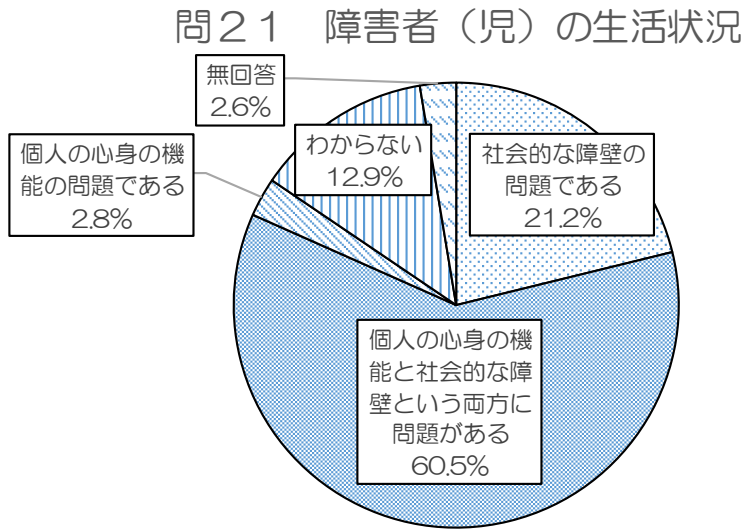
障害者(児)が住みやすいまちづくりのために重要だと思うことについて、雇用・就労の場の確保、障害者(児)への理解を深めるための学校教育などが重要であると考える人が多く、就労や教育の充実が望まれています。

問20 障害者(児)が住みやすいまちづくりのために重要
 だと思うこと



問21 障害者（児）は、生活する上で、様々な困難を伴う場合があります。あなたは、つぎのうちどの考えが最も近いですか。（○は1つだけ）

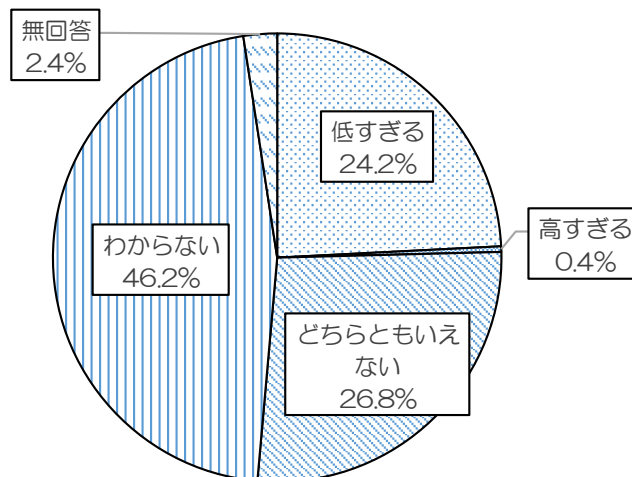
障害者（児）の生活状況について、「個人の心身の機能と社会的な障壁という両方の問題がある」（60.5%）と考える人が6割を占め、「社会的な障壁の問題である」（21.2%）と合わせると、『社会的な障壁の問題がある』と感じている人が8割を占める結果となっています。



問22 障害者（児）に関する社会的な障壁を取り除こうとするもののひとつに、国、県や市の障害者の施策がありますが、現在の障害者福祉の水準について、どのように感じていますか。（○は1つだけ）

現在の障害者福祉の水準に対して、「低すぎる」（24.2%）、「高すぎる」（0.4%）となっています。

問22 現在の障害者福祉の水準に対する評価



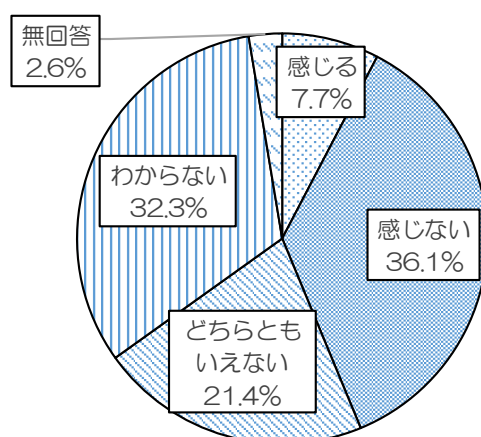
問23 障害者（児）に関する社会的な障壁を取り除くためには、地域や職場環境などあらゆる社会の中でのバリアフリーの推進やホームページなどでアクセスして誰もが容易に情報を共有できるようにするなど、アクセシビリティ※ 向上の環境整備を図ることが求められています。

あなたが、生活する上で、現在の地域や職場環境などでアクセシビリティ向上の環境整備がされていると感じますか。（○は1つだけ）

※アクセシビリティ：年齢や身体障害の有無に関係なく、誰でも必要とする情報に簡単にたどり着け、利用できること。

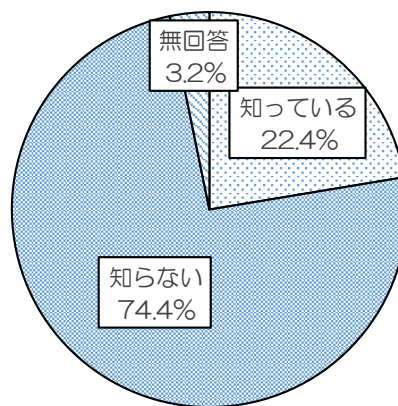
地域や職場環境などでのアクセシビリティ向上の環境整備に対して、「感じない」(36.1%)が最も多くなっています。

問23 地域や職場環境などでのアクセシビリティ向上の環境整備に対する評価



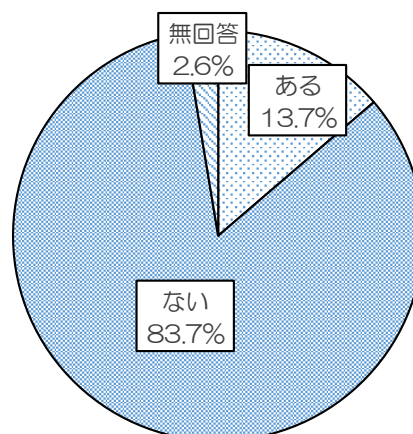
問24 あなたは、障害者差別解消法※を知っていますか。(〇は1つだけ)
 ※障害者差別解消法は、障害による差別を解消し、誰もが分け隔てなく共生する社会を実現することを目的とした法律のこと。この法律では、国・地方公共団体及び民間事業者が、障害者に対して、正当な理由なく、障害を理由として、サービスを拒否したり、制限したりするような「不当な差別的取扱い」を禁止するとともに、国・地方公共団体による障害のある方への「合理的配慮の提供」を義務づけています(民間事業者は努力義務)。
 障害者差別解消法の認知について、「知っている」(22.4%)、「知らない」(74.4%)と2割程度の認知度となっています。

問24 障害者差別解消法の認知度



問25 この法律では、障害を理由として、正当な理由なくサービスを拒否したり、制限したり、条件を付けたりするような「不当な差別的取扱い」を禁止していますが、これまでに障害者が差別を受けているのを見たり聞いたりしたことはありますか。(〇は1つだけ)
 障害者が差別を受けているのを見聞きした経験について、「ある」(13.7%)、「ない」(83.7%)となっています。

問25 障害者が差別を受けているのを見聞きした経験



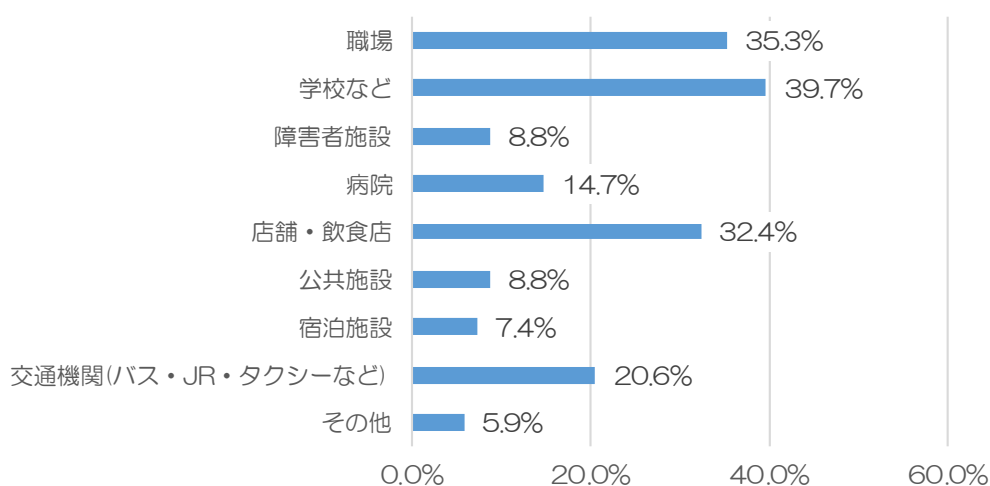
問25-1 どこで、誰から、どのようなことを見たり聞きましたか。

(それぞれ、あてはまるものすべてに○)

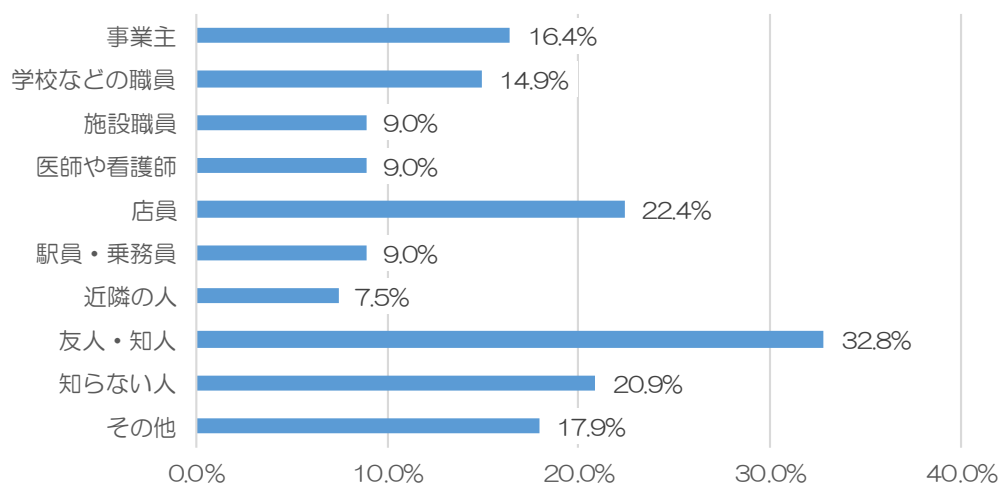
※問25で「ある」を選択した方のみお答えください。

障害者が差別を受けているのを見聞きした場所・相手・内容について、場所では「学校など」(39.7%)が最も多く、次いで「職場」(35.3%)、「店舗・飲食店」(32.4%)、相手では「友人・知人」(32.8%)が最も多く、次いで「店員」(22.4%)、「知らない人」(20.9%)、内容では「店や施設への入店・入場を断られた」(28.1%)が最も多く、次いで「同一労働をしているのに賃金が安い」(21.9%)、「必要なサービスや医療が受けられなかった」(18.8%)となっています。

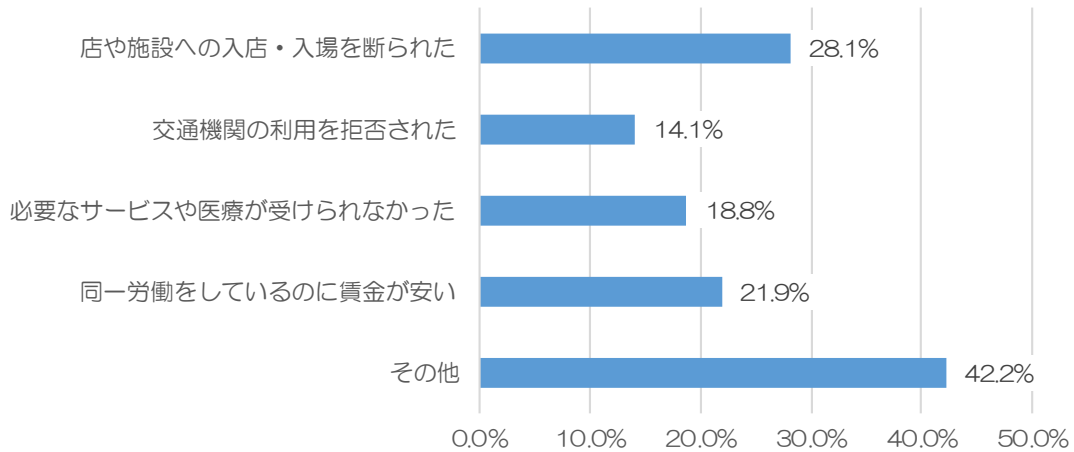
問25-1 障害者が差別を受けているのを見聞きした場所



問25-1 障害者が差別を受けているのを見聞きした相手



問25-1 障害者が差別を受けているのを見聞きした内容

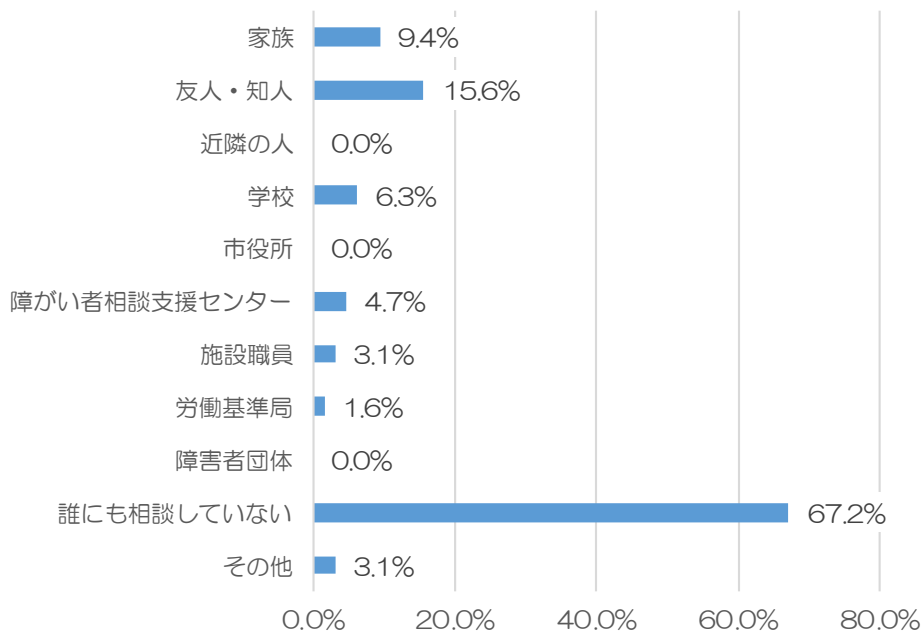


問25-2 誰にまたはどんなところに相談しましたか。(〇は2つまで)

※問25で「ある」を選択した方のみお答えください。

差別を相談した相手・機関について、「誰にも相談していない」(67.2%)が突出して割合が高く、次いで「友人・知人」(15.6%)、「家族」(9.4%)となっています。

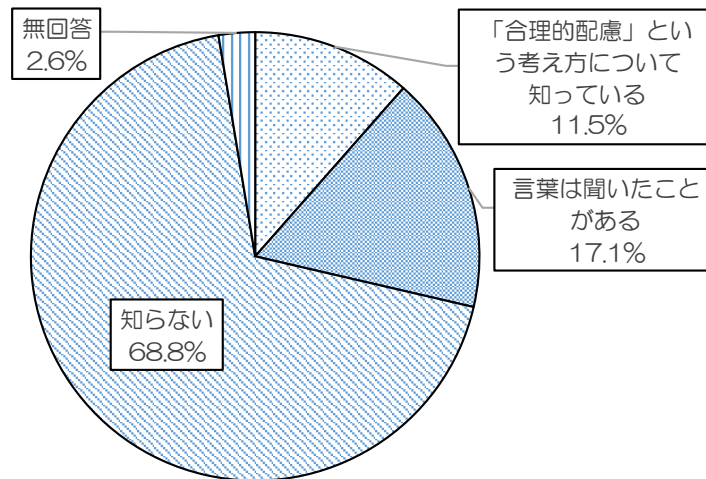
問25-2 差別を相談した相手・機関



問26 あなたは、合理的配慮（障害者から何らかの配慮を求める意思表示があった場合に、負担になりすぎない範囲で、社会的な障壁を取り除くために必要な配慮）について知っていますか。（〇は1つだけ）

合理的配慮の認知について、「合理的配慮」という考え方について知っている（11.5%）、
「言葉は聞いた事がある」（17.1%）、「知らない」（68.8%）と、認知度は低くなっています。

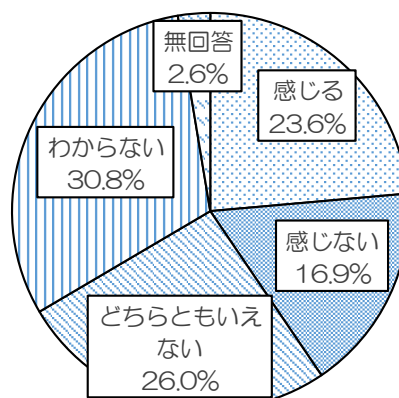
問26 合理的配慮の認知度



問27 国・地方公共団体の行政機関などは下記のような合理的配慮を求められております。あなたは、国・地方公共団体の行政機関などで合理的配慮がされてきていると感じますか。（〇は1つだけ）

国・地方公共団体などでの合理的配慮に対しては、「感じる」（23.6%）、「感じない」（16.9%）、「どちらともいえない」（26.0%）となっています。

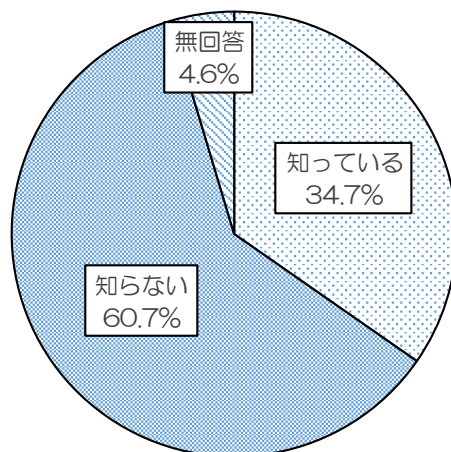
問27 国・地方公共団体などでの合理的配慮に対する評価



問28 あなたは、障害者虐待防止法※を知っていますか。(〇は1つだけ)

障害者虐待防止法の認知について、「知っている」(34.7%)、「知らない」(60.7%)と3割程度の認知度となっています。

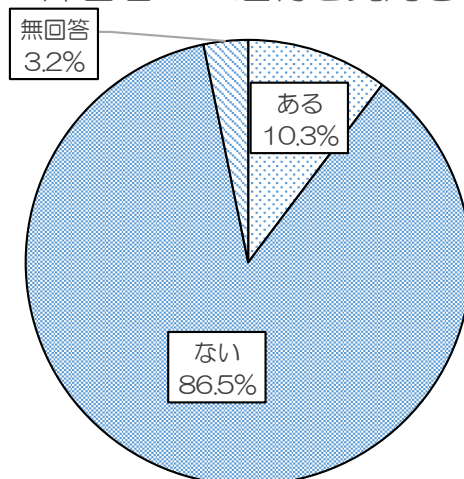
問28 障害者虐待防止法の認知度



問29 障害者への虐待を見たり聞いたりしたことがありますか。(〇は1つだけ)

障害者への虐待を見聞きした経験について、「ある」(10.3%)、「ない」(86.5%)となっています。

問29 障害者への虐待を見聞きした経験

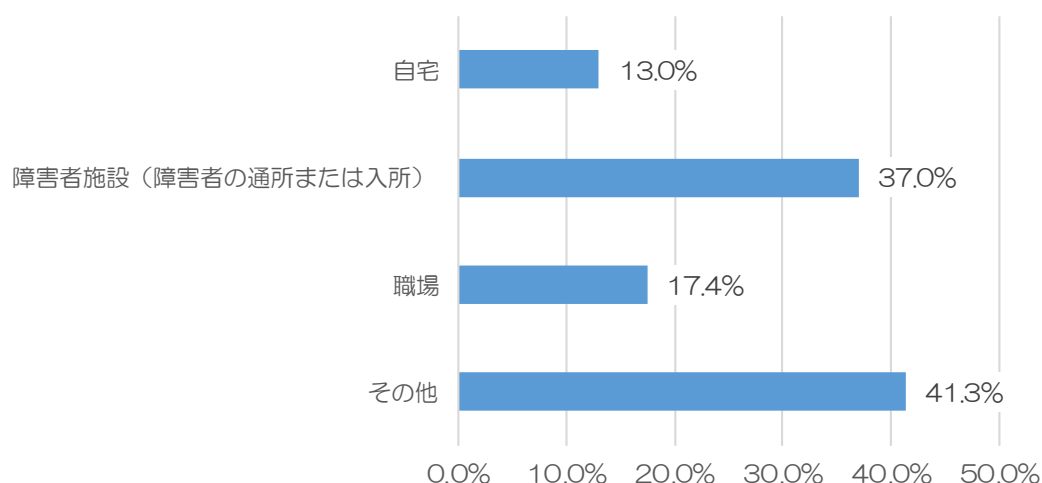


問29-1 どこで、誰から、どのようなことを見たり聞きましたか。(それぞれ、あてはまるものすべてに○)

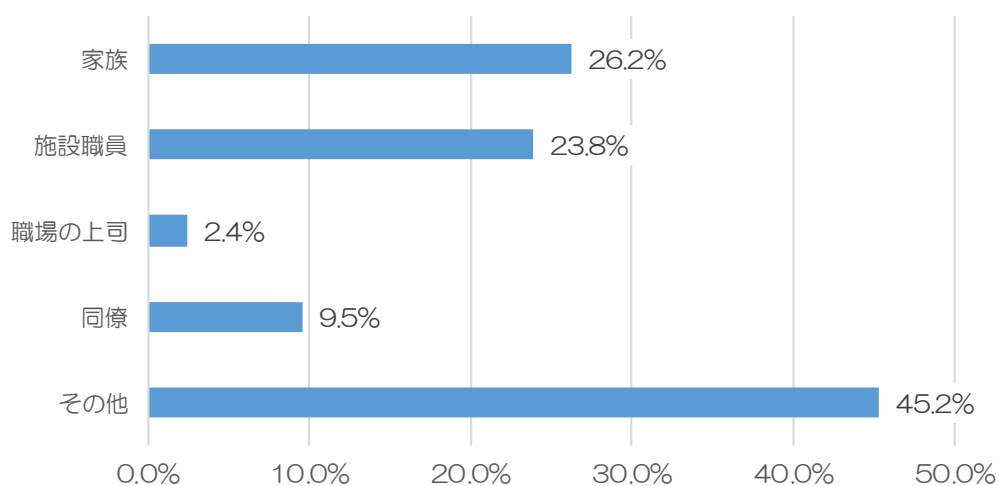
※問29で「ある」を選択した方のみお答えください。

障害者が虐待を受けているのを見聞きした場所・相手・内容について、場所では「障害者施設（障害者の通所または入所施設）」（37.0%）が最も多く、次いで「職場」（17.4%）、「自宅」（13.0%）、相手では「家族」（26.2%）が最も多く、次いで「施設職員」（23.8%）、「同僚」（9.5%）、内容では「侮辱する言葉を言われた」（61.7%）が最も多く、次いで「怒鳴られた」（57.4%）、「なぐられた」（42.6%）となっています。

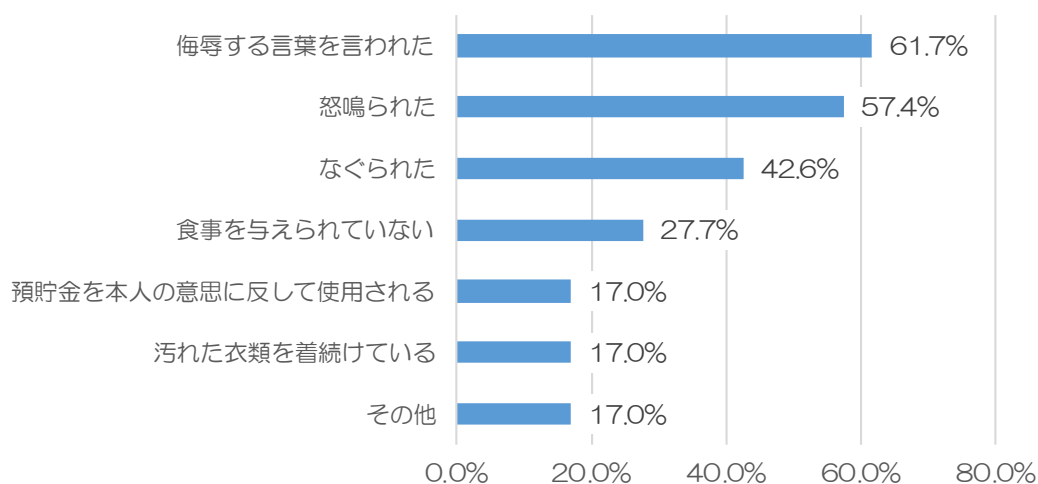
問29-1 障害者が虐待を受けているのを見聞きした場所



問29-1 障害者が虐待を受けているのを見聞きした相手



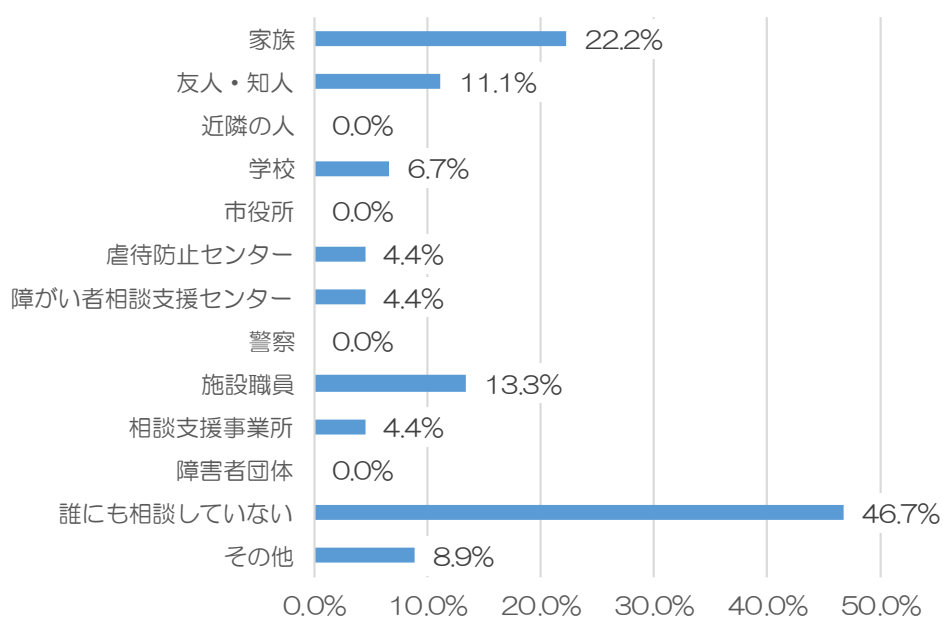
問29-1 障害者が虐待を受けているのを見聞きした内容



問29-2 誰にまたはどんなところに相談しましたか。(〇は2つまで)

虐待を相談した相手・機関について、「誰にも相談していない」(46.7%)が最も多く、次いで「家族」(22.2%)、「施設職員」(13.3%)となっています。

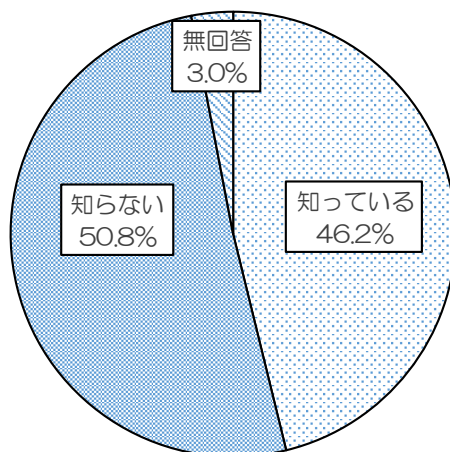
問29-2 虐待を相談した相手・機関



問30 障害者への虐待を発見したとき、通報する義務があるのを知っていますか。(〇は1つだけ)

障害者への虐待の通報義務の認知について、「知っている」(46.2%)、「知らない」(50.8%)となっています。

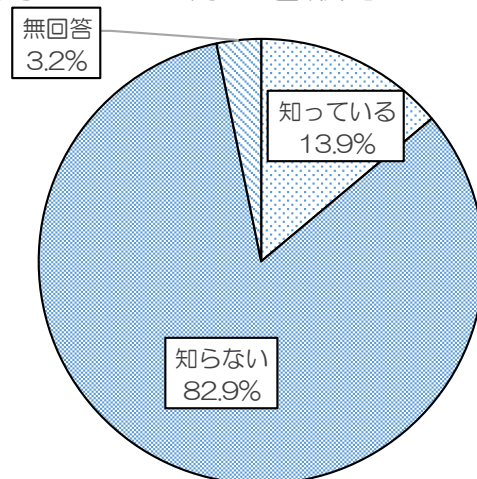
問30 障害者への虐待の通報義務の認知度



問31 障害者への虐待を発見したとき、通報先「徳島市障害者虐待防止センター」があるのを知っていますか。(〇は1つだけ)

虐待の通報先の認知度について、「知っている」(13.9%)、「知らない」(82.9%)と1割程度の認知度となっています。

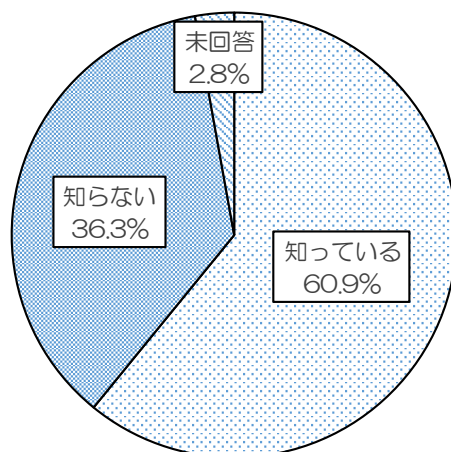
問31 虐待の通報先の認知度



問32 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(〇は1つだけ)

成年後見制度の認知度について、「知っている」(60.9%)、「知らない」(36.3%)となっており、6割程度の認知度となっています。

問32 成年後見制度の認知度

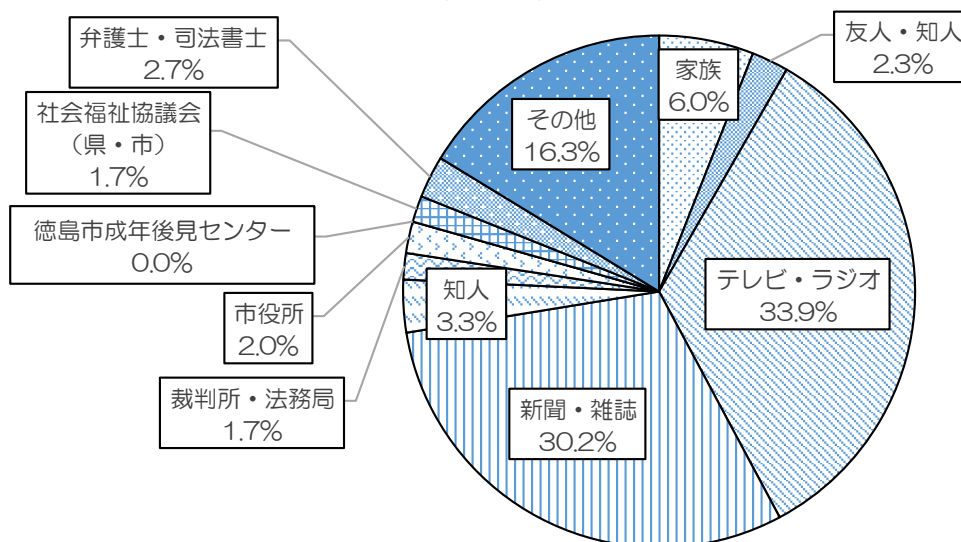


問32-1 成年後見制度をどこで知りましたか。(〇は1つだけ)

※問32で「知っている」を選択した方のみお答えください。

成年後見制度をどこで知ったかについて、「テレビ・ラジオ」や「新聞・雑誌」といったメディアを通して知った人が6割以上となっています。

問32-1 成年後見制度をどこで知ったか



3 主な自由意見

(1)「障害者手帳（身体・療育・精神）所持者または障害児通所支援等（児童）利用者を対象とした調査」の主な自由意見

○各種施設・サービスに関する意見

- ・通院等乗降介助等における車椅子に対応した事業所の充実
- ・安価に入所できる施設の充実
- ・行動援護・同行援護の利用条件の拡大（通勤・通学等）
- ・サービスの利用条件の緩和、対象者の拡大
- ・障害者施設入所者定員数の拡大
- ・施設職員の待遇改善（関わる職員のレベルアップ、また優秀な人材確保のため）
- ・介助者がいない者のサービスの充実（自宅訪問や安否確認）
- ・実態に沿ったサービス提供の実施

○就労・雇用に関する意見

- ・公的機関における障害者の直接雇用の拡大
- ・障害の特性にあわせた雇用条件の充実

○情報に関する意見

- ・避難場所の情報提供
- ・相談窓口の情報提供
- ・講演会等の開催（発達障害に係る知識を得るため）
- ・障害福祉サービスの詳細な情報提供

○教育に関する意見

- ・障害に係る差別に関する勉強会の開催
- ・幼少期からの障害に係る教育の充実
- ・障害への理解を育む人材育成

○介助者に関する意見

- ・障害福祉サービスに係る職員の十分な確保
- ・相談支援事業所の職員の充実

○経済的負担に関する意見

- ・家賃の補助
- ・医療費の軽減、免除
- ・年金の支払の軽減、免除
- ・自己負担上限額の見直し（収入に応じた段階的な設定）
- ・財政的な支援

○災害時に対する意見

- ・災害時にも通りやすいような道路の整備
- ・医療機関の充実（災害時に対応してもらえるか不安）
- ・避難所におけるプライバシー確保

○手続きに関する意見

- ・身体障害者手帳の交付申請に係る負担の軽減
- ・障害者手帳の更新時期における通知
- ・各種手続きの簡略化
- ・介助者がいなくなった場合における手続きの支援

○新型コロナウイルス感染症に関する意見

- ・マスク着用やソーシャルディスタンスが困難な障害者が排除されない仕組みの構築
- ・聴覚障害があり、マスクをしている人の口元が分からないので、聞き取ることができるような環境整備
- ・コロナウイルスは目に見えないので、自閉症の子にもわかりやすい環境整備

○行政に対する意見

- ・障害者団体への育成・支援
- ・バスにおけるステップのバリアフリー化の充実
- ・公共施設のエレベーターの充実
- ・相談支援事業の充実

○その他の意見

- ・アンケート調査結果の公表
- ・障害者手帳のさらなる携帯化（カード型）
- ・外見では分からない障害者のさらなる理解や配慮

(2)「その他の市民を対象とした調査」の主な自由意見

○各種施設・サービスに関する意見

- ・安価に入所できる施設の充実
- ・障害者と高齢者が共に暮らせる施設の充実
- ・サービスの利用条件の緩和
- ・介助者がいない者のサービスの充実（見守り・施設入所）

○就労・雇用に関する意見

- ・障害児への就労支援の充実
- ・自立にむけての就労の場の確保
- ・障害者が労働できる環境づくり

○情報に関する意見

- ・障害者への障害福祉サービスの詳細な情報提供
- ・障害に係る法律や制度などの情報発信
- ・行政の取り組みや啓発活動の情報発信
- ・障害者が必要としていることの周知（設備等）
- ・研修を受けられる環境づくり
- ・バリアフリーを目指した啓発活動

○教育に関する意見

- ・幼少期からの障害に係る教育の充実
- ・障害についての教育を受ける機会の確保
- ・障害者との交流の場の確保

○介助者に関する意見

- ・介助者の人材育成
- ・介助者の人員の確保
- ・介助者への支援

○経済的負担に関する意見

- ・補助対象者の拡大（聴覚障害者が補聴器を購入する場合）
- ・自己負担上限額の見直し

○行政に対する意見

- 窓口対応の改善
- 歩道の整備（点字ブロックの点検・修理など）
- 社会福祉士の待遇改善（社会福祉士の確保）
- 相談窓口の充実
- 書類内容の簡略化
- 行政の取り組みに対するさらなる迅速化

○その他の意見

- 定期的な障害に係る認知度の確認
- 参加型ボランティア事業の充実
- 外見では分からない障害者のさらなる理解や配慮
- 障害者に手助けをしてプライドを傷つけないか不安
- 障害の特性に応じた知識の醸成
- 障害者福祉に係る先進国との交流